

平成21年度
八千代市の男女共同参画に関する意識調査
調査結果報告書

平成22年3月

八千代市

－ 目 次 －

I	調査の概要	2
1	調査の目的	2
2	調査の内容	2
3	調査の方法	2
4	回収結果	2
II	調査の結果	4
1	プロフィール.....	4
2	男女の地位について	8
3	家庭生活等について	13
4	職業について.....	21
5	教育について.....	28
6	社会活動について.....	29
7	少子・高齢化について.....	30
8	国際化について	32
9	男女共同参画社会の形成に関する意識について	33
III	現状とまとめ	35
IV	自由意見	43
V	調査票	52

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

八千代市における市民の男女共同参画に関する意識や生活状況等について把握し、男女共同参画施策を推進する上での基礎資料を得るため。また、調査後の資料を市民への情報提供や次期計画策定に向けて活用するため。

2 調査の内容

- ・ 男女の地位について
- ・ 家庭生活等について
- ・ 職業について
- ・ 教育について
- ・ 社会活動について
- ・ 少子・高齢化について
- ・ 国際化について
- ・ 男女共同参画社会の形成に関する意識について

3 調査の方法

(1) 調査対象者

八千代市在住の16歳以上の男女2,500人

(2) 標本抽出方法

住民基本台帳（平成21年10月31日現在）をもとに無作為抽出

(3) 調査方法

郵送配布・回収

(4) 調査期間

平成21年11月4日～12月1日

4 回収結果

有効回収数 890人 有効回収率 35.6%

Ⅱ 調査の結果

※ 調査結果の集計について

各問において有効な回答から集計しました。

※ 表・グラフ中の比率について

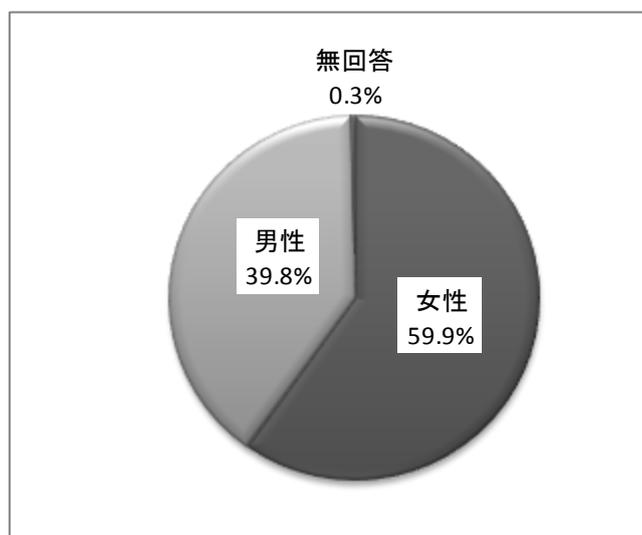
- ・ Nは質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。特に数字を示していない場合はN=890人（有効回収数）です。
- ・ 回答の比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合があります。

II 調査の結果

1 プロフィール

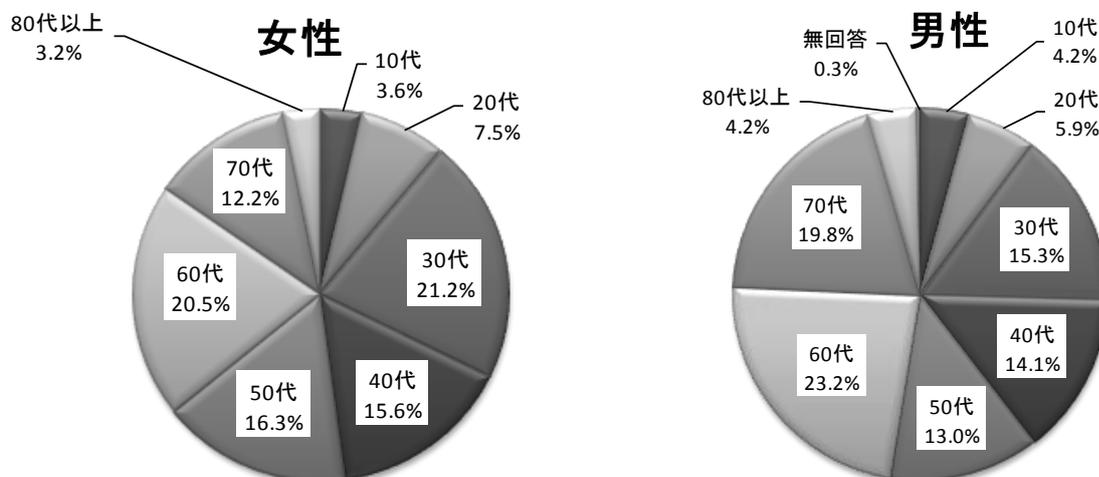
① 性別

回答者は、女性 59.9%、男性 39.8%となっています。



② 年齢

回答者の年齢について、女性は「30代」の割合が21.2%でもっとも高く、「60代」(20.5%)、「50代」(16.3%)と続いています。男性は、「60代」の割合が23.2%でもっとも高く、「70代」(19.8%)、「30代」(15.3%)と続いています。30代の女性の回答率が高く、男性と比べると女性は比較的若い世代の回答が多くなりました。



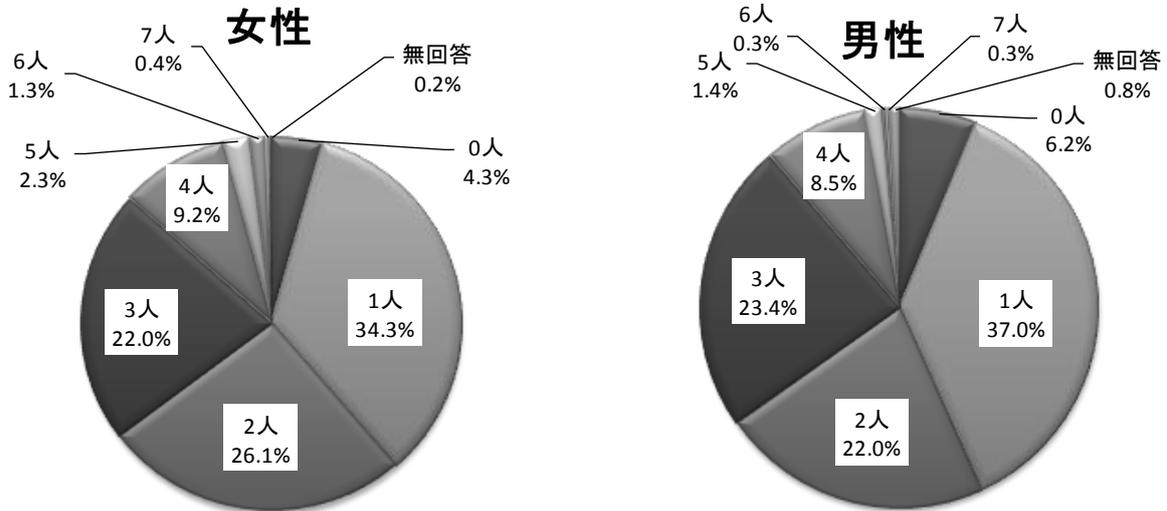
II 調査の結果

③ 世帯

(ア) 同居している家族の人数（本人を除く）

女性は、「1人」の割合が34.3%でもっとも高く、「2人」(26.1%)、「3人」(22.0%)と続いています。
 男性は、「1人」の割合が37.0%でもっとも高く、「3人」(23.4%)、「2人」(22.0%)と続いており、
 男性の方が「1人」の割合が高くなっています。

女性



(イ) 同居している家族の状況（1人世帯を除く）

女性も男性も、回答者のうち70%超が配偶者と同居しており、次いで「子」、「母」の順に高い割合になっています。

	配偶者	父	母	姉妹, 兄弟	子	親族	その他
女性	73.7%	14.3%	18.9%	10.1%	49.7%	5.1%	0.8%
男性	77.7%	12.4%	15.8%	7.9%	43.8%	3.1%	0.6%

【内訳】

1. 配偶者の年代（N=女性 392, 男性 275）

		配偶者								
		20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	無回答
回答者本人	女性	2.5%	20.6%	17.3%	16.3%	23.9%	15.5%	3.1%	0.3%	0.5%
	男性	3.6%	15.6%	14.2%	15.6%	32.4%	15.6%	2.2%	0.0%	0.7%

II 調査の結果

2. 父の年代 (N=女性 76, 男性 42)

		父						
		30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
回答者	女性	13.2%	28.9%	25.0%	26.3%	5.3%	1.3%	0.0%
	男性	15.9%	27.3%	29.5%	6.8%	15.9%	0.0%	4.5%

3. 母の年代 (N=女性 101, 男性 54)

		母							
		30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	無回答
回答者	女性	2.0%	17.0%	22.0%	18.0%	25.0%	8.0%	8.0%	0.0%
	男性	0.0%	17.9%	30.4%	16.1%	17.9%	8.9%	5.4%	3.6%

4. 姉妹, 兄弟の年代 (N =女性 54, 男性 28)

		姉妹, 兄弟						
		～10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
回答者	女性	24.1%	37.0%	9.3%	14.8%	3.7%	9.3%	1.9%
	男性	42.9%	35.7%	17.9%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%

5. 子の人数 (N =女性 263, 男性 154)

	1人	2人	3人	4人	無回答
女性	50.2%	38.1%	10.9%	0.0%	0.8%
男性	43.9%	45.8%	9.0%	0.6%	0.6%

	0～5歳	6～12歳	13～15歳	16～18歳	19歳以上
女性	10.7%	12.6%	6.0%	6.2%	23.1%
男性	8.8%	10.2%	5.9%	6.2%	22.6%

6. 親族の人数 (N =女性 26, 男性 11)

	1人	2人	3人
女性	1.5%	2.6%	0.8%
男性	2.3%	0.6%	0.3%

II 調査の結果

④ 介護・育児の有無

現在、同居家族の中に介護を必要とする人がいる回答者の割合は、女性 6.8%、男性 4.5%となっています。

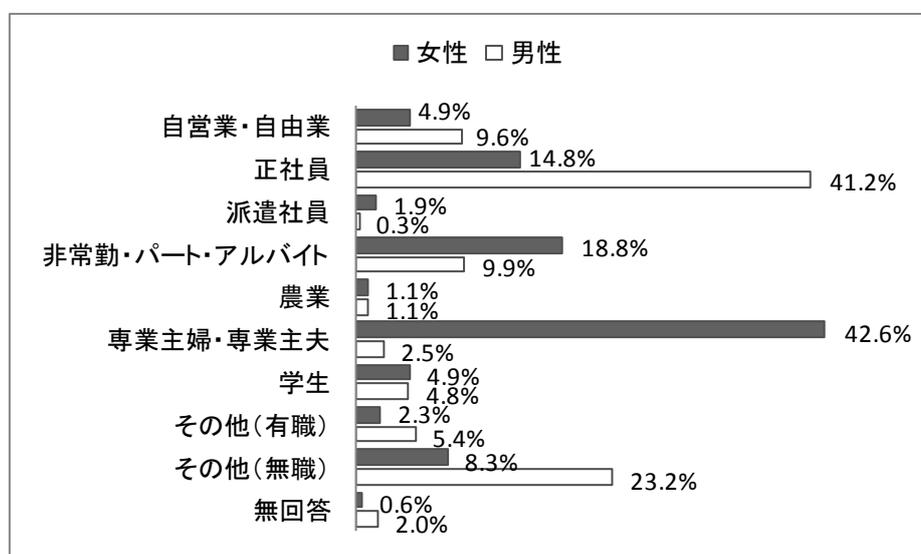
同居家族の中に育児を必要とする人がいる回答者の割合は、女性 16.7%、男性 10.5%となっています。

	現在、同居家族の中に介護を必要とする人がいる	現在、同居家族の中に育児を必要とする人がいる
女性	6.8%	16.7%
男性	4.5%	10.5%

⑤ 職業

女性は、「専業主婦」の割合が 42.6%で最も高く、「非常勤・パート・アルバイト」(18.8%)、「正社員」(14.8%)の順になっています。

男性は、「正社員」の割合が 41.2%で最も高く、「その他(無職)」(23.2%)、「非常勤・パート・アルバイト」(9.9%)の順になっています。



	自営業・自由業	正社員	派遣社員	非常勤・パート・アルバイト	農業	専業主婦・専業主夫	学生	その他(有職)	その他(無職)	無回答
女性	4.9%	14.8%	1.9%	18.8%	1.1%	42.6%	4.9%	2.3%	8.3%	0.6%
男性	9.6%	41.2%	0.3%	9.9%	1.1%	2.5%	4.8%	5.4%	23.2%	2.0%

2 男女の地位について

問1 次の(1)から(10)の分野で男女の地位は平等になっていると思うか

(1) 家庭生活において

女性は「男性の方が優遇されている」の割合が 57.4%、男性は「平等」の割合が 46.3%でそれぞれ高くなっています。

(2) 職場において

女性も男性も「男性の方が優遇されている」（女性 61.9%、男性 56.2%）の割合が高くなっています。

(3) 学校教育の場において

女性も男性も「平等」（女性 56.8%、男性 59.9%）の割合が高くなっています。

(4) 政治の場において

女性も男性も「男性の方が優遇されている」（女性 70.8%、男性 57.6%）の割合が高くなっています。

(5) 法律や制度上において

女性は「男性の方が優遇されている」の割合が 42.5%、男性は「平等」の割合が 44.1%でそれぞれ高くなっています。

(6) 社会通念・意識・慣習・しきたり等において

女性も男性も「男性の方が優遇されている」（女性 75.9%、男性 65.5%）の割合が高くなっています。

(7) 地域活動において

女性も男性も「平等」（女性 45.1%、男性 53.1%）の割合が高くなっています。

(8) 健康づくり・福祉において

女性も男性も「平等」（女性 66.5%、男性 72.9%）の割合が高くなっています。

(9) 国際社会において

女性は「男性の方が優遇されている」の割合が 45.3%、男性は「平等」の割合が 41.2%でそれぞれ高くなっています。

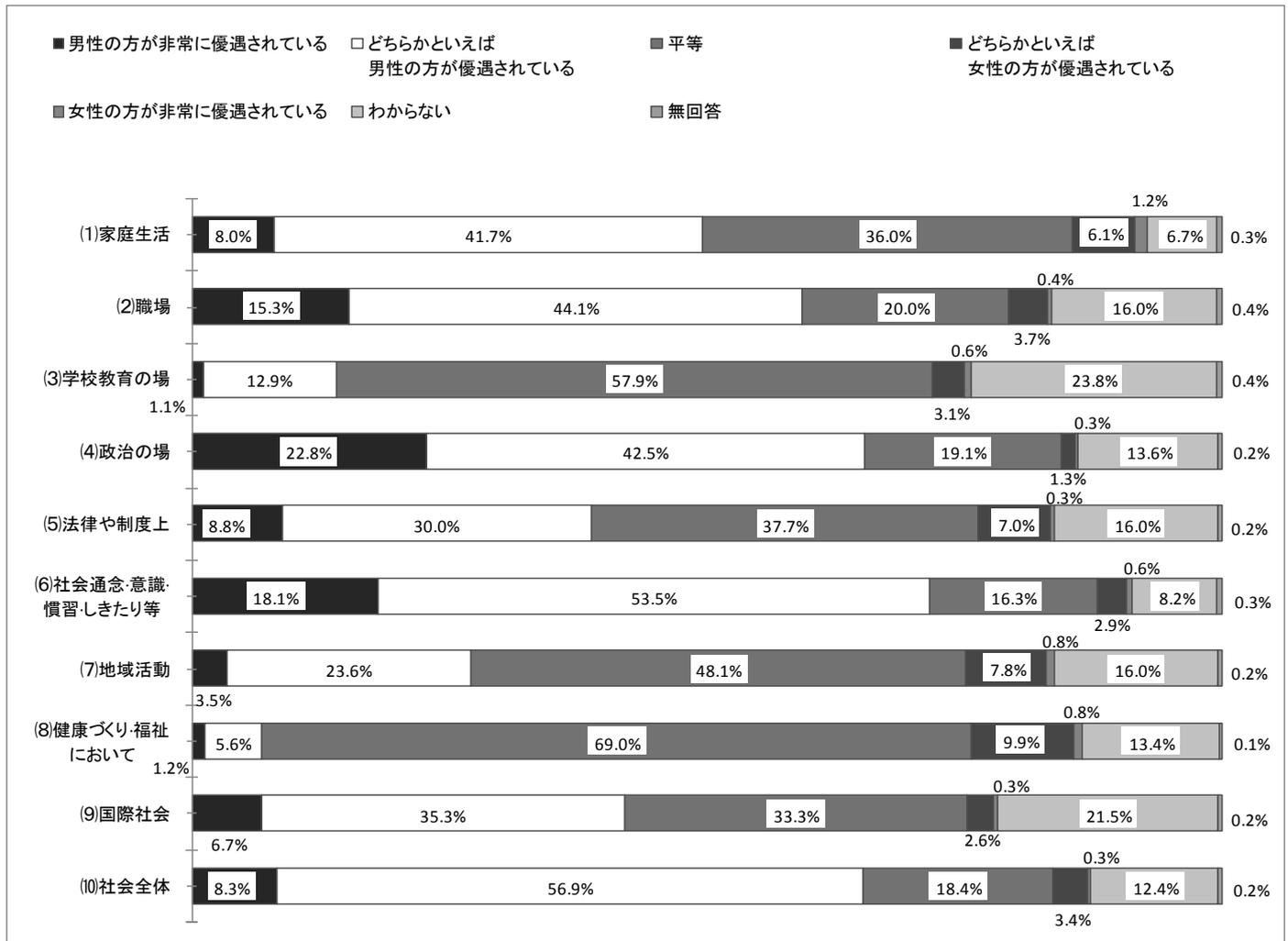
(10) 社会全体において

女性も男性も「男性の方が優遇されている」（女性 71.4%、男性 55.9%）の割合が高くなっています。

全国調査や千葉県調査と比較すると、どの分野もおおむね近い数値となっており、学校や地域活動は平等、家庭・職場・政治・法律や制度上・社会通念・社会全体では男性が優遇されていると感じている割合が高くなっています。

※「男性の方が優遇されている」は、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計です。

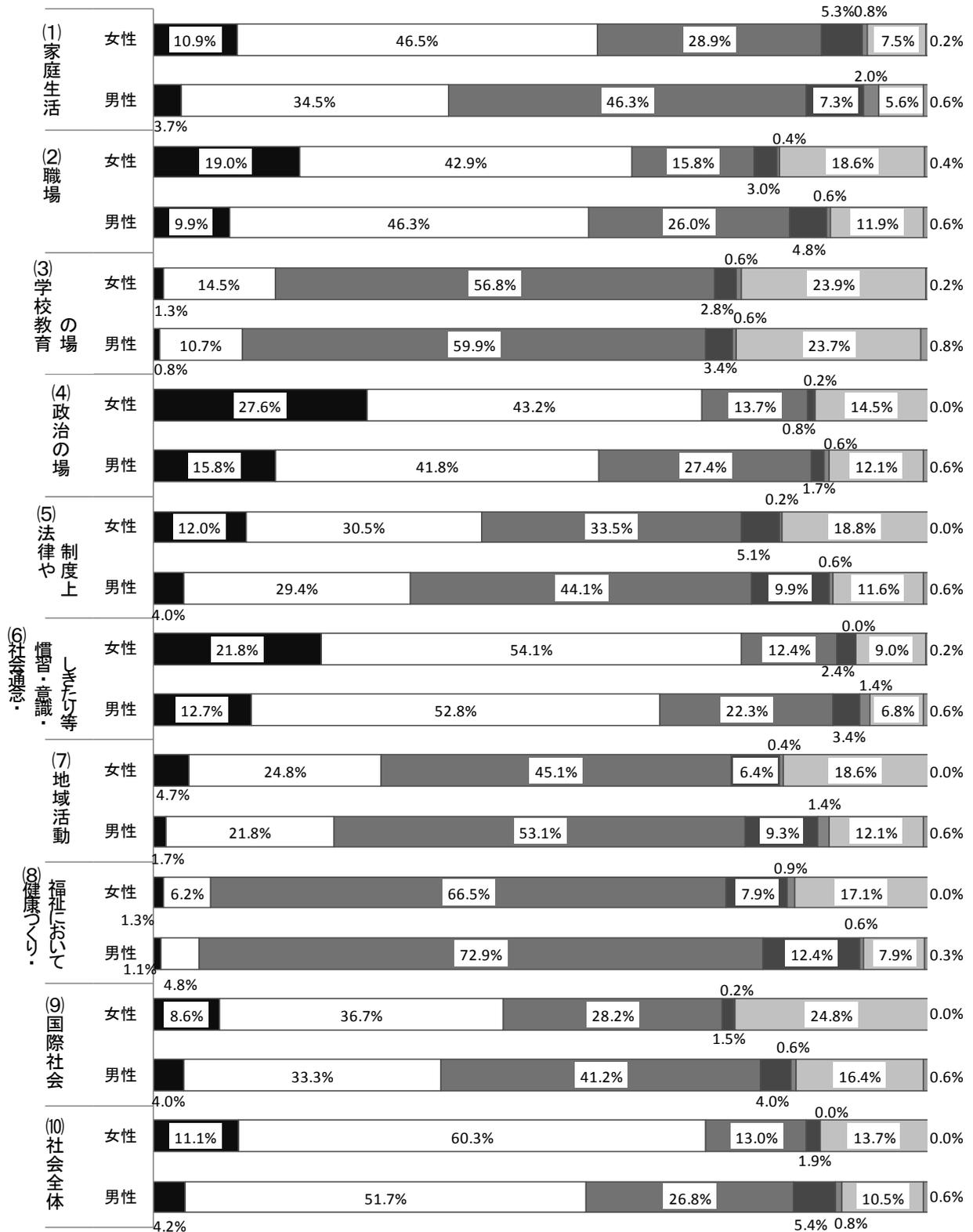
II 調査の結果



II 調査の結果

【性別】

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

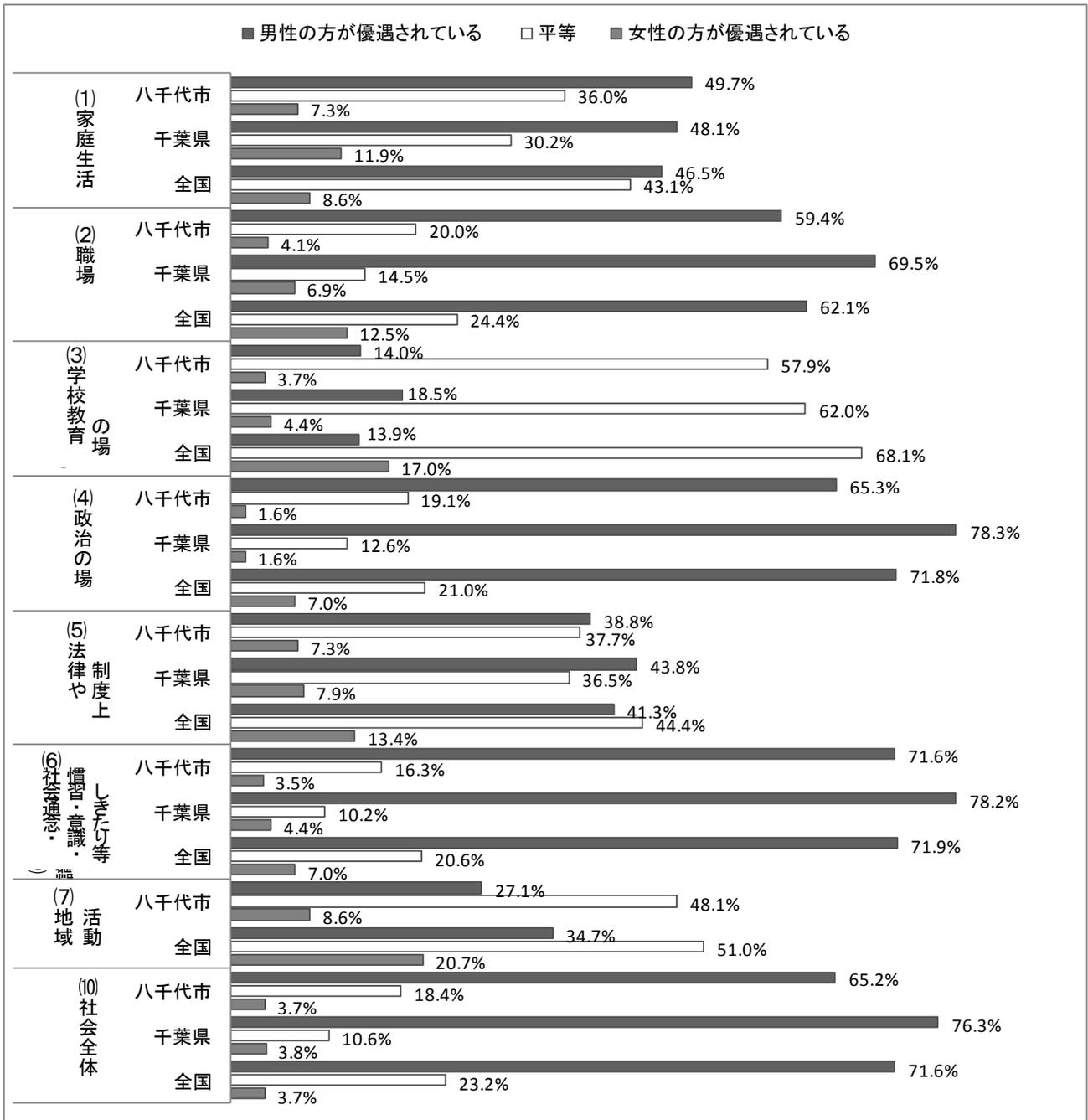


II 調査の結果

		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
(1)家庭生活	全体	8.0%	41.7%	36.0%	6.1%	1.2%	6.7%	0.3%
	女性	10.9%	46.5%	28.9%	5.3%	0.8%	7.5%	0.2%
	男性	3.7%	34.5%	46.3%	7.3%	2.0%	5.6%	0.6%
(2)職場	全体	15.3%	44.1%	20.0%	3.7%	0.4%	16.0%	0.4%
	女性	19.0%	42.9%	15.8%	3.0%	0.4%	18.6%	0.4%
	男性	9.9%	46.3%	26.0%	4.8%	0.6%	11.9%	0.6%
(3)学校教育の場	全体	1.1%	12.9%	57.9%	3.1%	0.6%	23.8%	0.4%
	女性	1.3%	14.5%	56.8%	2.8%	0.6%	23.9%	0.2%
	男性	0.8%	10.7%	59.9%	3.4%	0.6%	23.7%	0.8%
(4)政治の場	全体	22.8%	42.5%	19.1%	1.3%	0.3%	13.6%	0.2%
	女性	27.6%	43.2%	13.7%	0.8%	0.2%	14.5%	0.0%
	男性	15.8%	41.8%	27.4%	1.7%	0.6%	12.1%	0.6%
(5)法律や制度上	全体	8.8%	30.0%	37.7%	7.0%	0.3%	16.0%	0.2%
	女性	12.0%	30.5%	33.5%	5.1%	0.2%	18.8%	0.0%
	男性	4.0%	29.4%	44.1%	9.9%	0.6%	11.6%	0.6%
(6)社会通念・意識・慣習・しきたり等	全体	18.1%	53.5%	16.3%	2.9%	0.6%	8.2%	0.3%
	女性	21.8%	54.1%	12.4%	2.4%	0.0%	9.0%	0.2%
	男性	12.7%	52.8%	22.3%	3.4%	1.4%	6.8%	0.6%
(7)地域活動	全体	3.5%	23.6%	48.1%	7.8%	0.8%	16.0%	0.2%
	女性	4.7%	24.8%	45.1%	6.4%	0.4%	18.6%	0.0%
	男性	1.7%	21.8%	53.1%	9.3%	1.4%	12.1%	0.6%
(8)健康づくり・福祉において	全体	1.2%	5.6%	69.0%	9.9%	0.8%	13.4%	0.1%
	女性	1.3%	6.2%	66.5%	7.9%	0.9%	0.0%	0.0%
	男性	1.1%	4.8%	72.9%	12.4%	0.6%	7.9%	0.3%
(9)国際社会	全体	6.7%	35.3%	33.3%	2.6%	0.3%	21.5%	0.2%
	女性	8.6%	36.7%	28.2%	1.5%	0.2%	24.8%	0.0%
	男性	4.0%	33.3%	41.2%	4.0%	0.6%	16.4%	0.6%
(10)社会全体	全体	8.3%	56.9%	18.4%	3.4%	0.3%	12.4%	0.2%
	女性	11.1%	60.3%	13.0%	1.9%	0.0%	13.7%	0.0%
	男性	4.2%	51.7%	26.8%	5.4%	0.8%	10.5%	0.6%

Ⅱ 調査の結果

【全国調査※1・千葉県調査※2との比較（同様の問いがあるもののみ）】



※1 平成 21 年内閣府「男女共同参画に関する世論調査」

※2 平成 16 年千葉県「男女共同参画社会の実現に向けての県民意識調査」

II 調査の結果

3 家庭生活等について

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について

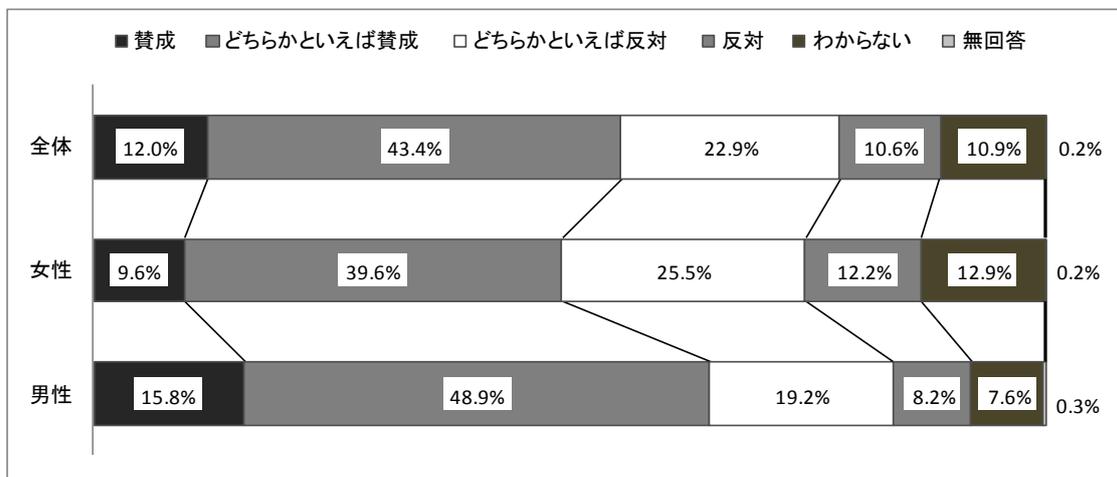
「賛成」の割合は、女性 49.2%（「賛成」9.6%+「どちらかといえば賛成」39.6%）、男性 64.7%（「賛成」15.8%+「どちらかといえば賛成」48.9%）となっています。

「反対」の割合は、女性 37.7%（「どちらかといえば反対」25.5%+「反対」12.2%）、男性 27.4%（「どちらかといえば反対」19.2%+「反対」8.2%）となっています。

年齢別に見ると、女性も男性も「賛成」とする者の割合は 80 代以上、「反対」とする者の割合は 10 代で、それぞれ高くなっています。

女性では、50 代以上の半数以上が「賛成」、男性では女性と比べて全体的に「賛成」が多く、80 代以上では 93.3%となっています。

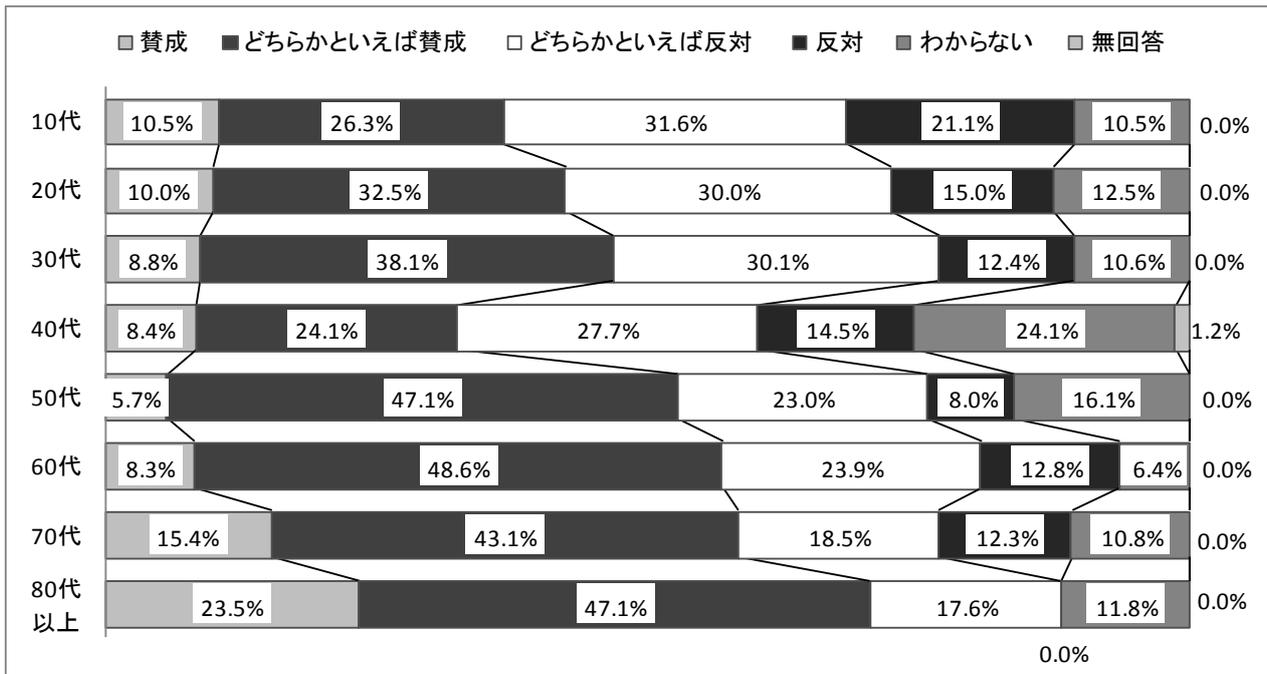
内閣府が平成 21 年に実施した「男女共同参画に関する世論調査」と比較すると、全国調査では「賛成」の割合が 41.3%、「反対」の割合が 55.1%で「反対」の割合が高いのに対し、八千代市では「賛成」の割合が 55.4%、「反対」の割合が 33.5%で「賛成」の割合が高くなっており、意識改革が少し遅れている傾向にあります。



	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
全体	12.0%	43.4%	22.9%	10.6%	10.9%	0.2%
女性	9.6%	39.6%	25.5%	12.2%	12.9%	0.2%
男性	15.8%	48.9%	19.2%	8.2%	7.6%	0.3%

Ⅱ 調査の結果

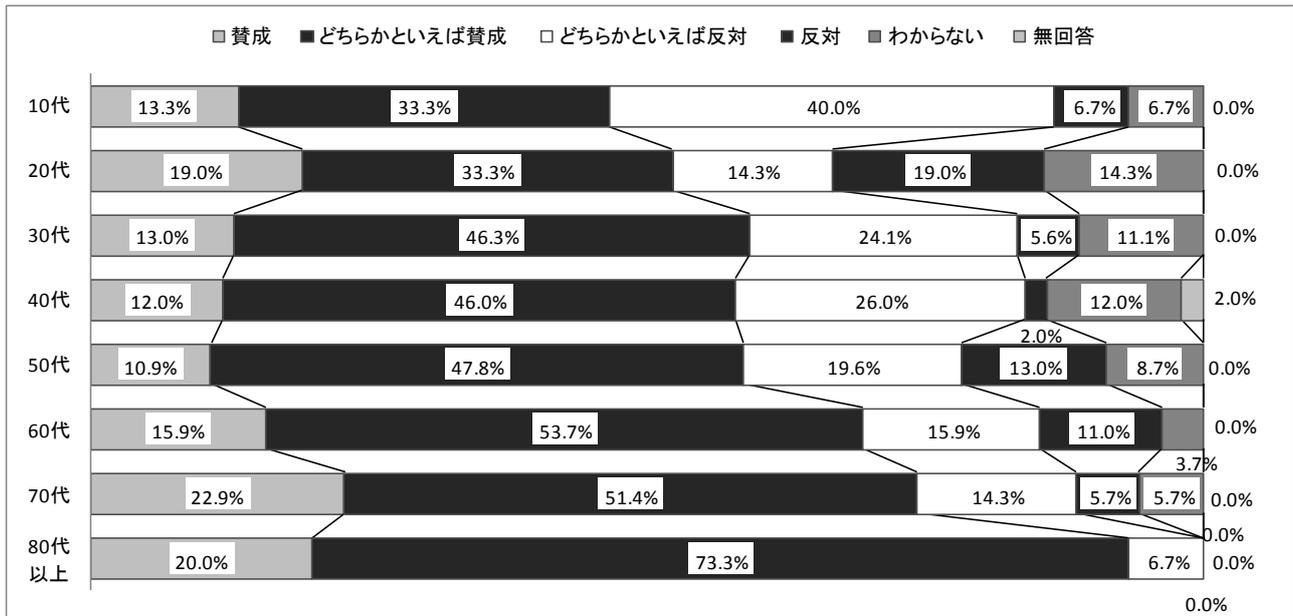
【性・年齢別】女性



	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
10代	10.5%	26.3%	31.6%	21.1%	10.5%	0.0%
20代	10.0%	32.5%	30.0%	15.0%	12.5%	0.0%
30代	8.8%	38.1%	30.1%	12.4%	10.6%	0.0%
40代	8.4%	24.1%	27.7%	14.5%	24.1%	1.2%
50代	5.7%	47.1%	23.0%	8.0%	16.1%	0.0%
60代	8.3%	48.6%	23.9%	12.8%	6.4%	0.0%
70代	15.4%	43.1%	18.5%	12.3%	10.8%	0.0%
80代以上	23.5%	47.1%	17.6%	0.0%	11.8%	0.0%

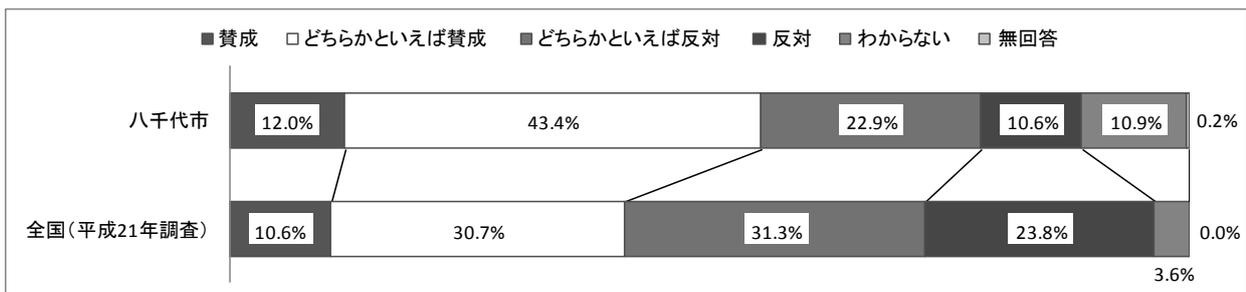
II 調査の結果

男性



	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対	わからない	無回答
10代	13.3%	33.3%	40.0%	6.7%	6.7%	0.0%
20代	19.0%	33.3%	14.3%	19.0%	14.3%	0.0%
30代	13.0%	46.3%	24.1%	5.6%	11.1%	0.0%
40代	12.0%	46.0%	26.0%	2.0%	12.0%	2.0%
50代	10.9%	47.8%	19.6%	13.0%	8.7%	0.0%
60代	15.9%	53.7%	15.9%	11.0%	3.7%	0.0%
70代	22.9%	51.4%	14.3%	5.7%	5.7%	0.0%
80代以上	20.0%	73.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%

【全国調査*との比較】

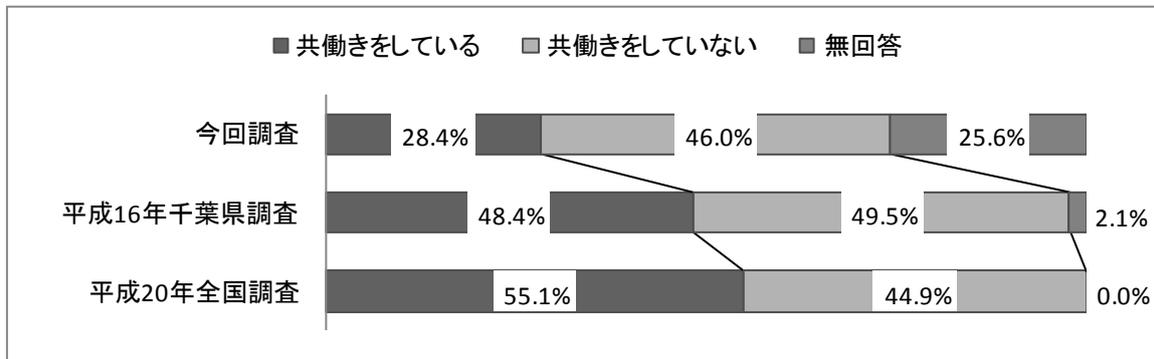


*平成 21 年内閣府「男女共同参画に関する世論調査」

II 調査の結果

問3 (結婚している方に) 夫婦で共働きをしているか

「共働きをしていない」の割合が 46.0%、「共働きをしている」の割合が 28.4%となり、「共働きをしていない」が「共働きをしている」を上回りました。国、千葉県調査と比較すると、共働きをしていない割合はほぼ同数であるものの、共働きをしている割合は大きく開きがあります。



	共働きをしている	共働きをしていない	無回答
今回調査	28.4%	46.0%	25.6%
平成16年千葉県調査	48.4%	49.5%	2.1%
平成20年全国調査	55.1%	44.9%	0.0%

II 調査の結果

問4 家庭では、次の(1)から(4)のことを、主に誰が行っているか

(1) 家事において

女性も男性も「家族の中の女性」(女性 84.4%, 男性 75.7%) の割合がもっとも高くなっています。

(2) 育児において

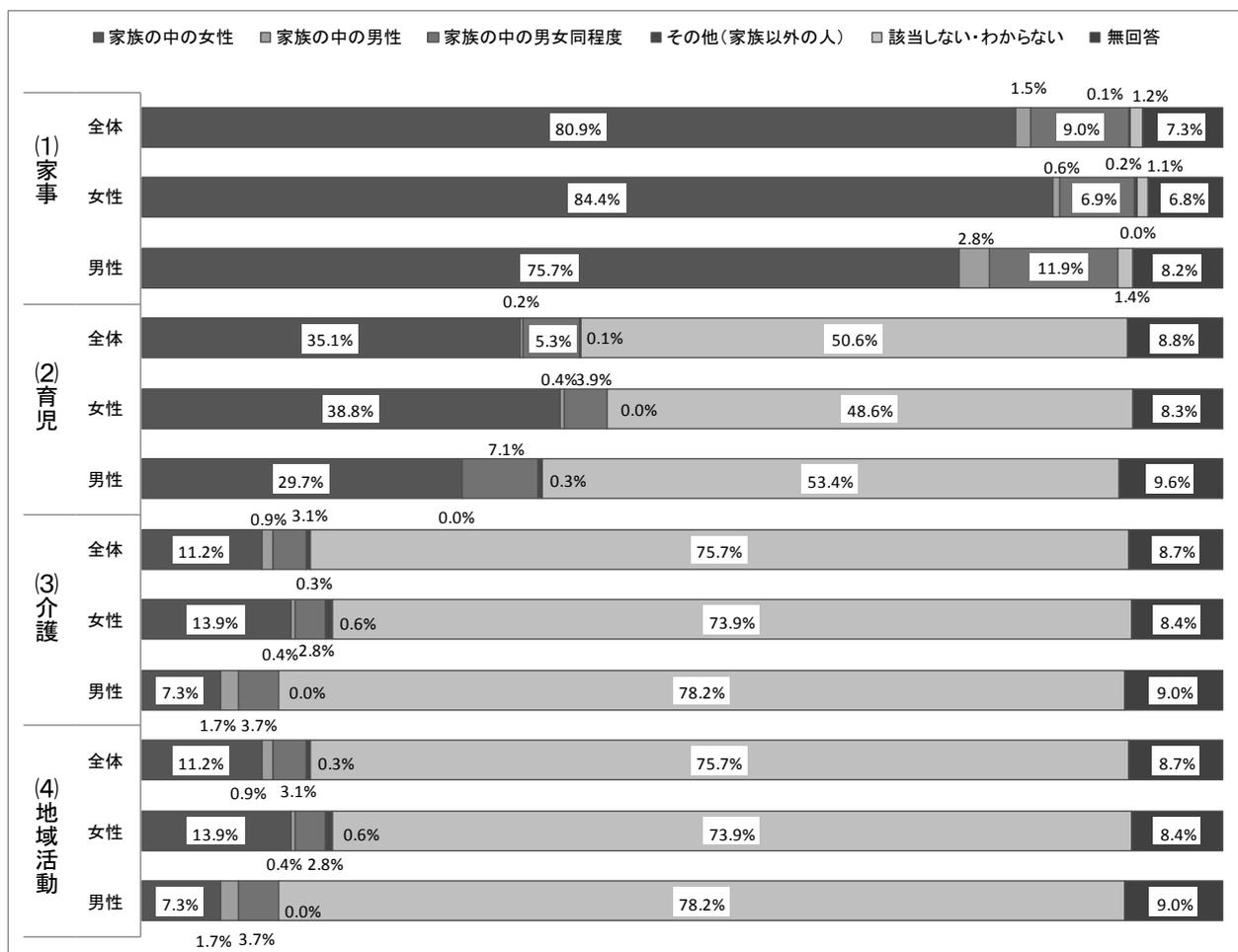
女性も男性も「家族の中の女性」(女性 38.8%, 男性 29.7%) の割合がもっとも高くなっています。

(3) 介護において

「該当しない・わからない」を除くと、女性も男性も「家族の中の女性」(女性 13.9%, 男性 7.3%) の割合がもっとも高くなっています。

(4) 地域活動において

「該当しない・わからない」を除くと、女性も男性も「家族の中の女性」(女性 13.9%, 男性 7.3%) の割合がもっとも高くなっています。



II 調査の結果

		家族の中 の女性	家族の中 の男性	家族の中の 男女同程度	その他(家族 以外の人)	該当しない・ わからない	無回答
(1)家事	全体	80.9%	1.5%	9.0%	0.1%	1.2%	7.3%
	女性	84.4%	0.6%	6.9%	0.2%	1.1%	6.8%
	男性	75.7%	2.8%	11.9%	0.0%	1.4%	8.2%
(2)育児	全体	35.1%	0.2%	5.3%	0.1%	50.6%	8.8%
	女性	38.8%	0.4%	3.9%	0.0%	48.6%	8.3%
	男性	29.7%	0.0%	7.1%	0.3%	53.4%	9.6%
(3)介護	全体	11.2%	0.9%	3.1%	0.3%	75.7%	8.7%
	女性	13.9%	0.4%	2.8%	0.6%	73.9%	8.4%
	男性	7.3%	1.7%	3.7%	0.0%	78.2%	9.0%
(4)地域活動	全体	11.2%	0.9%	3.1%	0.3%	75.7%	8.7%
	女性	13.9%	0.4%	2.8%	0.6%	73.9%	8.4%
	男性	7.3%	1.7%	3.7%	0.0%	78.2%	9.0%

II 調査の結果

問5 理想として、次の(1)から(4)のことをどのように分担するのがよいと思うか。

(1) 家事において

女性も男性も「家族の中の男女同程度」(女性 62.5%, 男性 51.1%)の割合がもっとも高くなっています。

(2) 育児において

女性も男性も「家族の中の男女同程度」(女性 64.2%, 男性 52.0%)の割合がもっとも高くなっています。

(3) 介護において

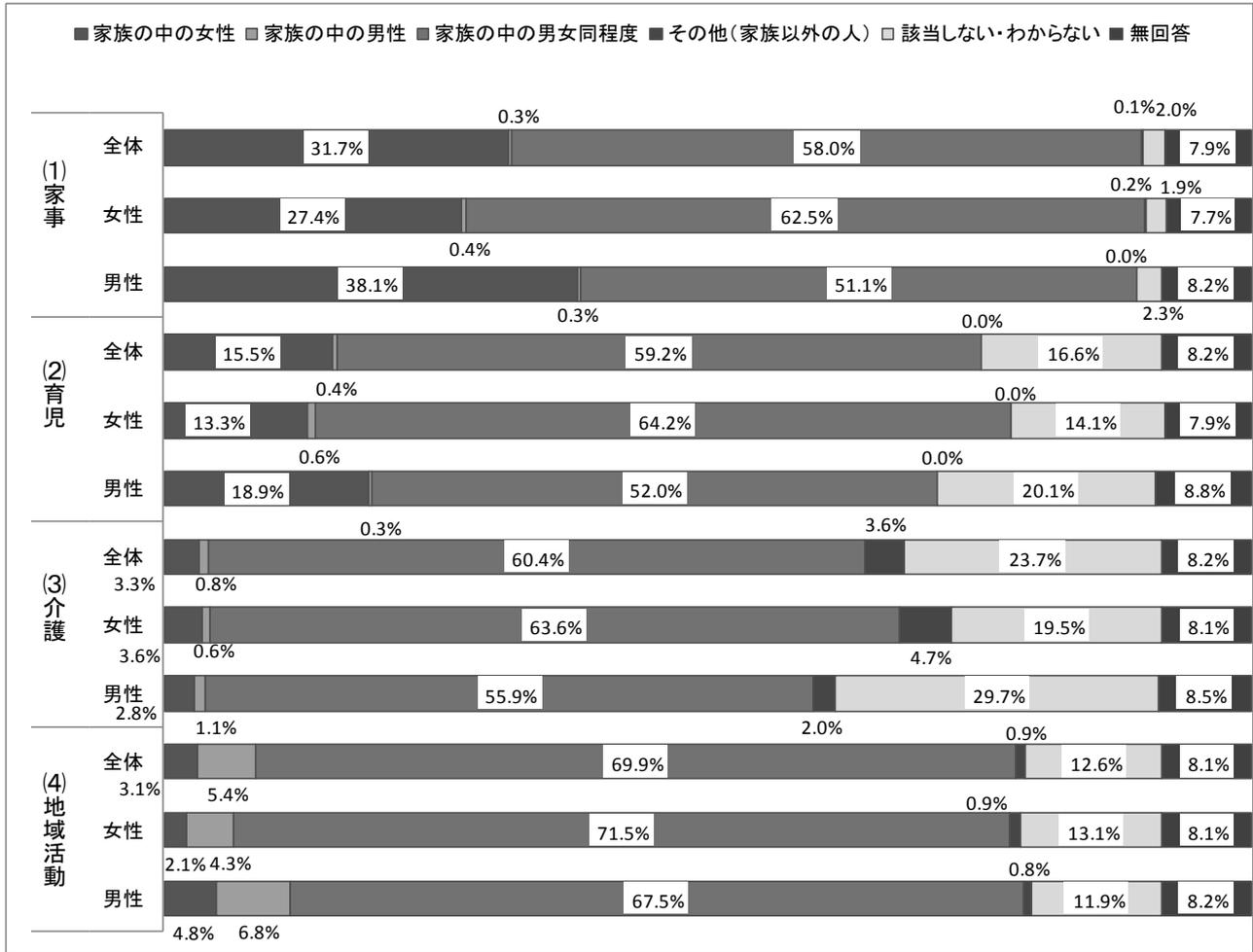
女性も男性も「家族の中の男女同程度」(女性 63.6%, 男性 55.9%)の割合がもっとも高くなっています。

(4) 地域活動において

女性も男性も「家族の中の男女同程度」(女性 71.5%, 男性 67.5%)の割合がもっとも高くなっています。

すべての分野において、理想とする形態は男女ともに「家族の中の男女同程度」が半数以上になっており、問4において現在は「家族の中の女性」の割合が高かったことと比較すると、理想と現実の差があることがわかります。

II 調査の結果



		家族の中 の女性	家族の中 の男性	家族の中の 男女同程度	その他(家族 以外の人)	該当しない・ わからない	無回答
(1)家事	全体	31.7%	0.3%	58.0%	0.1%	2.0%	7.9%
	女性	27.4%	0.4%	62.5%	0.2%	1.9%	7.7%
	男性	38.1%	0.3%	51.1%	0.0%	2.3%	8.2%
(2)育児	全体	15.5%	0.4%	59.2%	0.0%	16.6%	8.2%
	女性	13.3%	0.6%	64.2%	0.0%	14.1%	7.9%
	男性	18.9%	0.3%	52.0%	0.0%	20.1%	8.8%
(3)介護	全体	3.3%	0.8%	60.4%	3.6%	23.7%	8.2%
	女性	3.6%	0.6%	63.6%	4.7%	19.5%	8.1%
	男性	2.8%	1.1%	55.9%	2.0%	29.7%	8.5%
(4)地域活動	全体	3.1%	5.4%	69.9%	0.9%	12.6%	8.1%
	女性	2.1%	4.3%	71.5%	0.9%	13.1%	8.1%
	男性	4.8%	6.8%	67.5%	0.8%	11.9%	8.2%

II 調査の結果

4 職業について

問6 (現在、職業をお持ちの方に) 職場での性別による差別はあると思うか

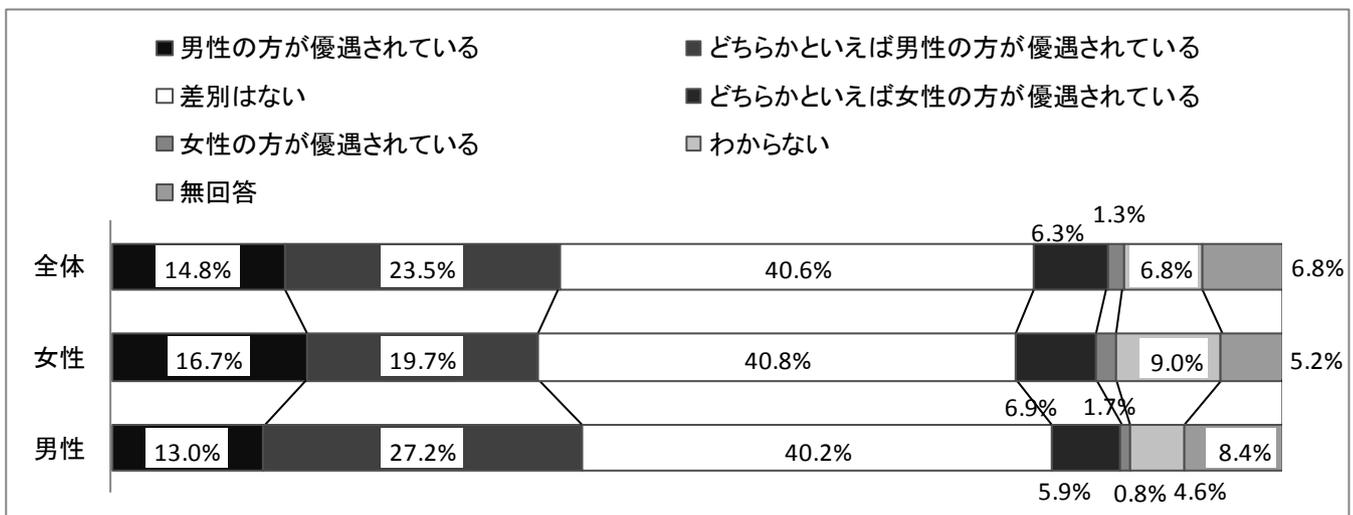
「男性の方が優遇されている」の割合は、女性 36.4%（「男性の方が優遇されている」16.7%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」19.7%）、男性 40.2%（「男性の方が優遇されている」13.0%+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」27.2%）となっています。

「差別はない」の割合は、女性 40.8%、男性 40.2%となっています。

「女性の方が優遇されている」の割合は、女性 8.6%（「女性の方が優遇されている」6.9%+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」1.7%）、男性 6.7%（「女性の方が優遇されている」5.9%+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」0.8%）となっています。

全体として、約4割は「差別はない」と考えていますが、「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合は7.6%であるのに対し、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は38.3%と、男性が優遇されていると考えられている状況となっております。

また、問1(2)職場（回答者全員への質問）と問6（現在、職業を持っている人への質問）を比較すると、問1では平等と回答している割合が2割であるのに対し、問6では約4割となっております。

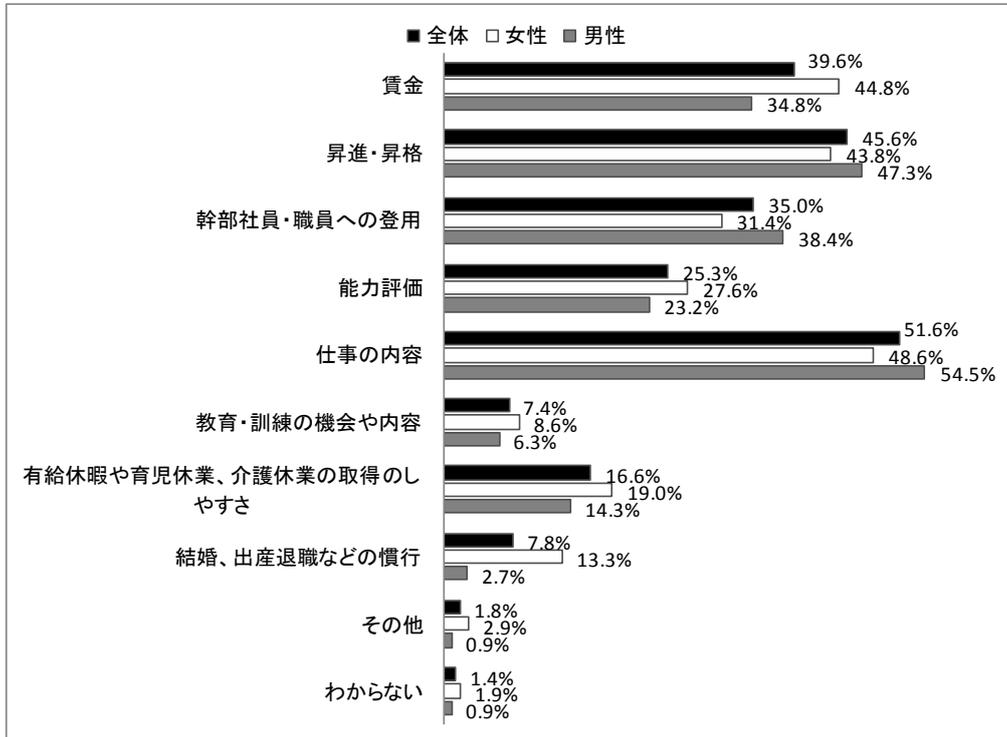


	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	差別はない	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
全体(N=473)	14.8%	23.5%	40.6%	6.3%	1.3%	6.8%	6.8%
女性(N=233)	16.7%	19.7%	40.8%	6.9%	1.7%	9.0%	5.2%
男性(N=239)	13.0%	27.2%	40.2%	5.9%	0.8%	4.6%	8.4%

II 調査の結果

問7 問6で「差別がある」と答えた方に具体的にどのようなことか。(複数回答可)

女性も男性も「仕事の内容」(女性 48.6%, 男性 54.5%)の割合がもっとも高くなっています。女性は、次いで44.8%で「賃金」、43.8%で「昇進・昇格」が続いています。男性は、次いで47.3%で「昇進・昇格」、38.4%で「幹部社員・職員への登用」が続いています。

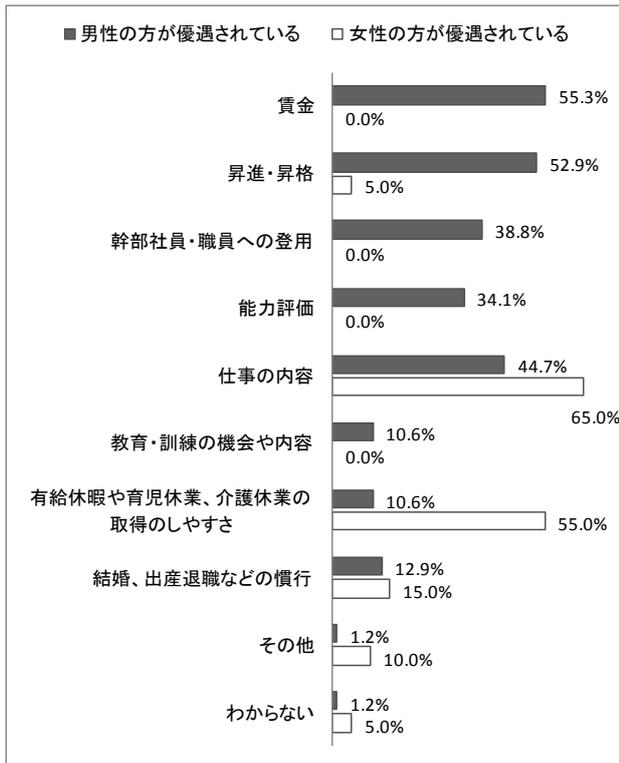


	全体 (N =217)	女性 (N =105)	男性 (N =112)
賃金	39.6%	44.8%	34.8%
昇進・昇格	45.6%	43.8%	47.3%
幹部社員・職員への登用	35.0%	31.4%	38.4%
能力評価	25.3%	27.6%	23.2%
仕事の内容	51.6%	48.6%	54.5%
教育・訓練の機会や内容	7.4%	8.6%	6.3%
有給休暇や育児休業、介護休業の取得のしやすさ	16.6%	19.0%	14.3%
結婚、出産退職などの慣行	7.8%	13.3%	2.7%
その他	1.8%	2.9%	0.9%
わからない	1.4%	1.9%	0.9%

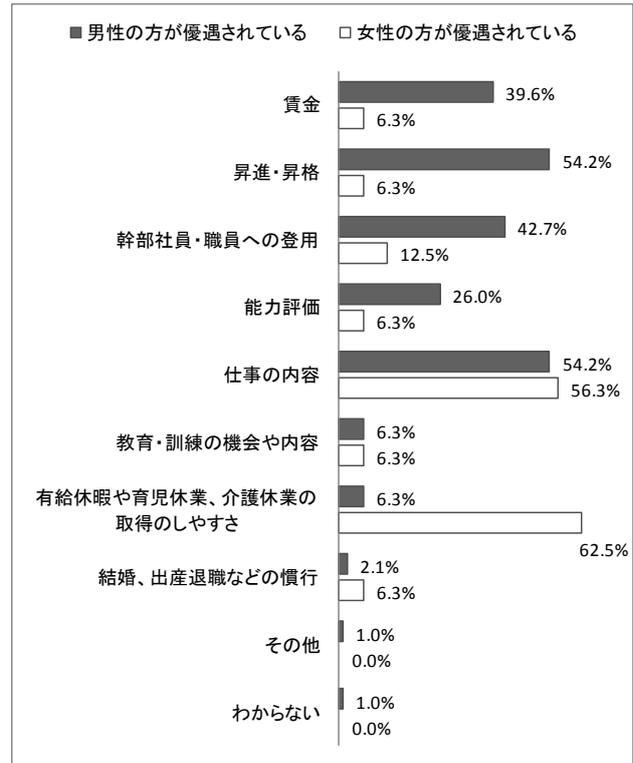
II 調査の結果

【男性，女性が優遇されていると回答した人別】

女性



男性



	女性		男性	
	男性の方が優遇されている (N=85)	女性の方が優遇されている (N=20)	男性の方が優遇されている (N=96)	女性の方が優遇されている (N=16)
賃金	55.3%	0.0%	39.6%	6.3%
昇進・昇格	52.9%	5.0%	54.2%	6.3%
幹部社員・職員への登用	38.8%	0.0%	42.7%	12.5%
能力評価	34.1%	0.0%	26.0%	6.3%
仕事の内容	44.7%	65.0%	54.2%	56.3%
教育・訓練の機会や内容	10.6%	0.0%	6.3%	6.3%
有給休暇や育児休業、介護休業の取得のしやすさ	10.6%	55.0%	6.3%	62.5%
結婚、出産退職などの慣行	12.9%	15.0%	2.1%	6.3%
その他	1.2%	10.0%	1.0%	0.0%
わからない	1.2%	5.0%	1.0%	0.0%

II 調査の結果

問8 (現在、職業をお持ちでない方に) 働いていない理由

女性は、「年齢面の制限のため」の割合が17.7%でもっとも高くなっており、次いで「定年退職したから」が12.8%、「子育てとの両立が困難だから」が12.2%で続いています。

男性は、「定年退職したから」の割合が61.4%でもっとも高くなっており、次いで「年齢面の制限のため」が9.6%、「健康面の制限のため」が6.1%で続いています。

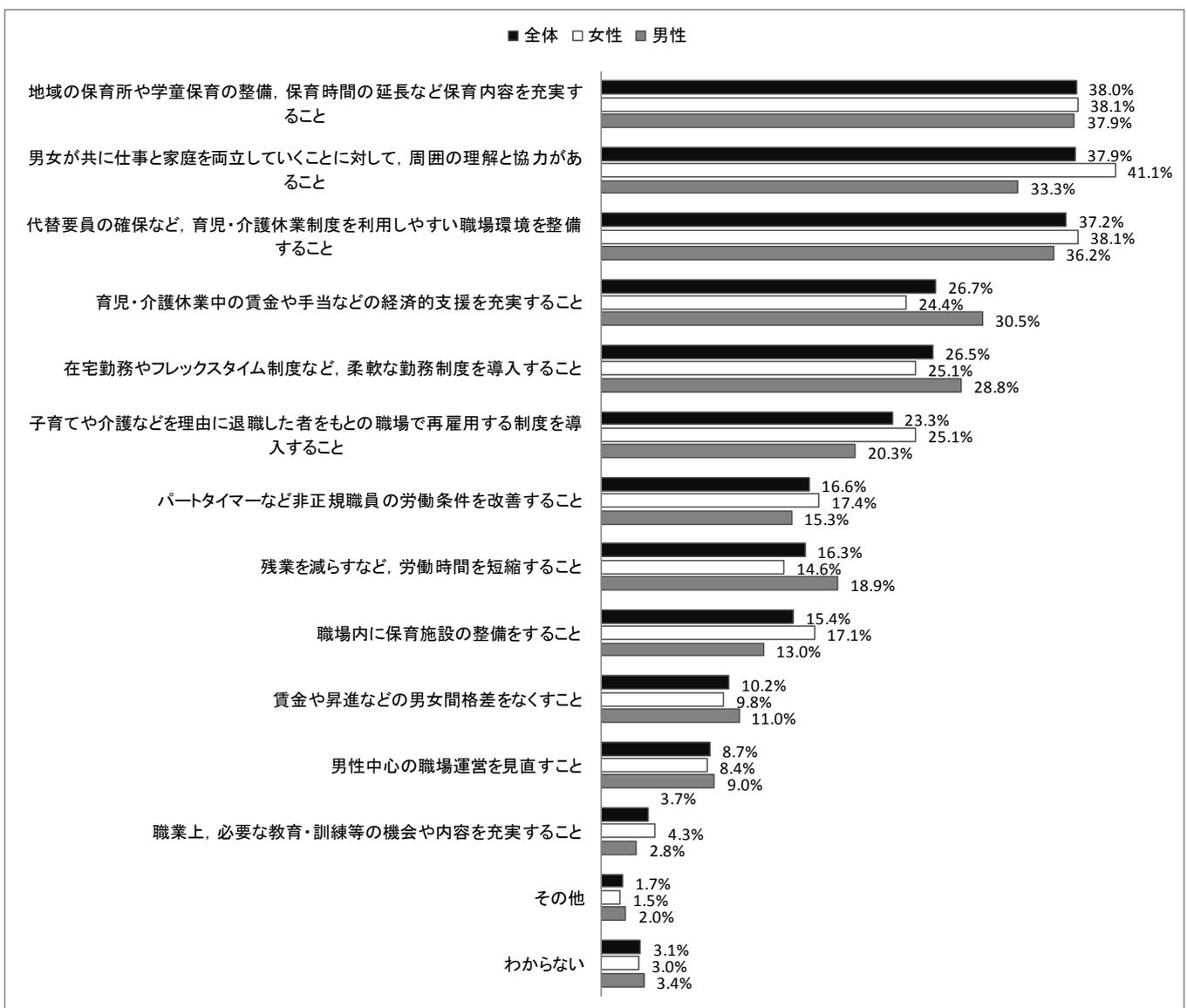
	全体(N =402)	女性(N =288)	男性(N =114)
経済的に働く必要がないから	8.0%	9.7%	3.5%
家事との両立が困難だから	3.7%	5.2%	0.0%
子育てとの両立が困難だから	8.7%	12.2%	0.0%
介護との両立が困難だから	1.0%	1.0%	0.9%
適当な勤務条件（時間，場所等）の仕事がなかったから	3.2%	3.8%	1.8%
希望する仕事なかったから	1.5%	1.7%	0.9%
年齢面の制限のため	15.4%	17.7%	9.6%
健康面の制限のため	7.0%	7.3%	6.1%
配偶者（パートナー）等家族が望まないから	3.2%	4.5%	0.0%
家事や子育て，介護に専念したいから	3.7%	5.2%	0.0%
定年退職したから	26.6%	12.8%	61.4%
その他	3.5%	3.8%	2.6%
特に理由はない	4.5%	5.9%	0.9%
無回答	10.0%	9.0%	12.3%

II 調査の結果

問9 男女が共に仕事と家庭を両立していくために、必要な環境整備について（複数回答可）

女性は「男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」の割合が41.1%でもっとも高くなっており、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」と「地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」が38.1%で続いています。

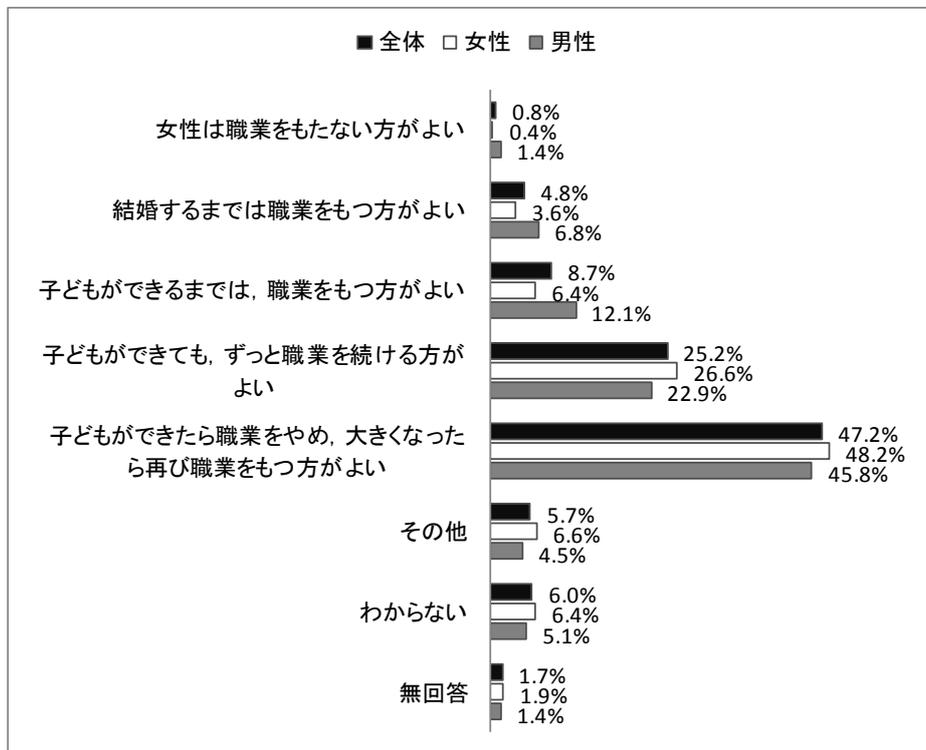
男性は「地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」の割合が37.9%でもっとも高くなっており、「代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」が36.2%、「男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」が33.3%で続いています。



II 調査の結果

問 10 女性が職業をもつことについて

女性も男性も「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合（女性 48.2%、男性 45.8%）がもっとも高くなっており、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」（女性 26.6%、男性 22.9%）が続いています。女性の就業に対する否定的な意見はほぼありません。

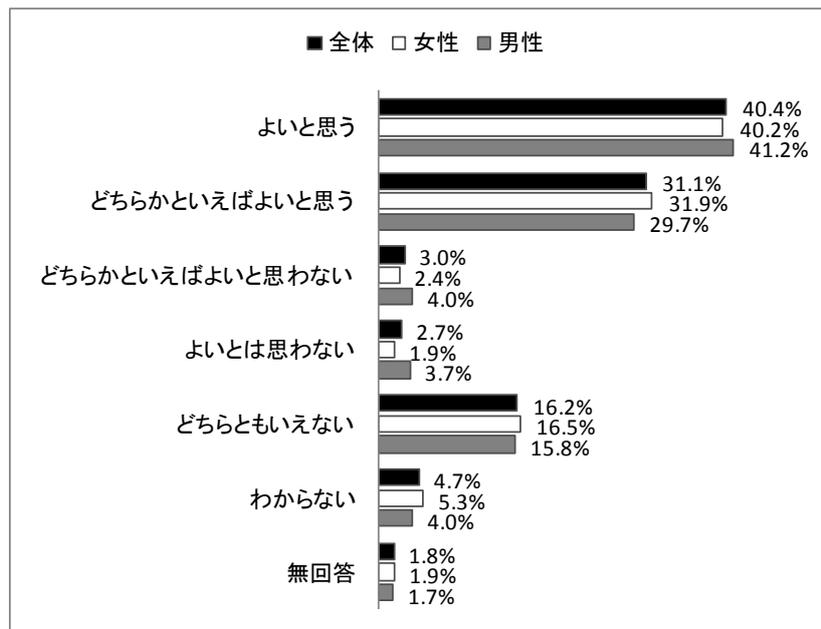


II 調査の結果

問11 今後、さまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増える方がよいと思うか

「よいと思う」の割合は、全体では71.5%（「よいと思う」40.4%+「どちらかといえばよいと思う」31.1%）、女性72.1%（「よいと思う」40.2%+「どちらかといえばよいと思う」31.9%）、男性70.9%（「よいと思う」41.2%+「どちらかといえばよいと思う」29.7%）となっています。

「よいとは思わない」の割合は、全体では5.7%（「よいとは思わない」2.7%+「どちらかといえばよいと思わない」3.0%）女性4.3%（「よいとは思わない」1.9%+「どちらかといえばよいと思わない」2.4%）、男性7.7%（「よいとは思わない」3.7%+「どちらかといえばよいと思わない」4.0%）となっています。



II 調査の結果

5 教育について

問 12 教育における男女平等の意識について、どう思うか

(1) 「性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい」について、「そう思う」の割合は女性が 93.5%、男性が 91.8%となっています。

「そう思わない」の割合は女性が 1.7%、男性が 2.8%となっています。

(2) 「同じことをしても、女子だけまたは男子だけが注意されることも必要である」について、「そう思う」の割合は女性が 35.6%、男性が 39.3%となっています。

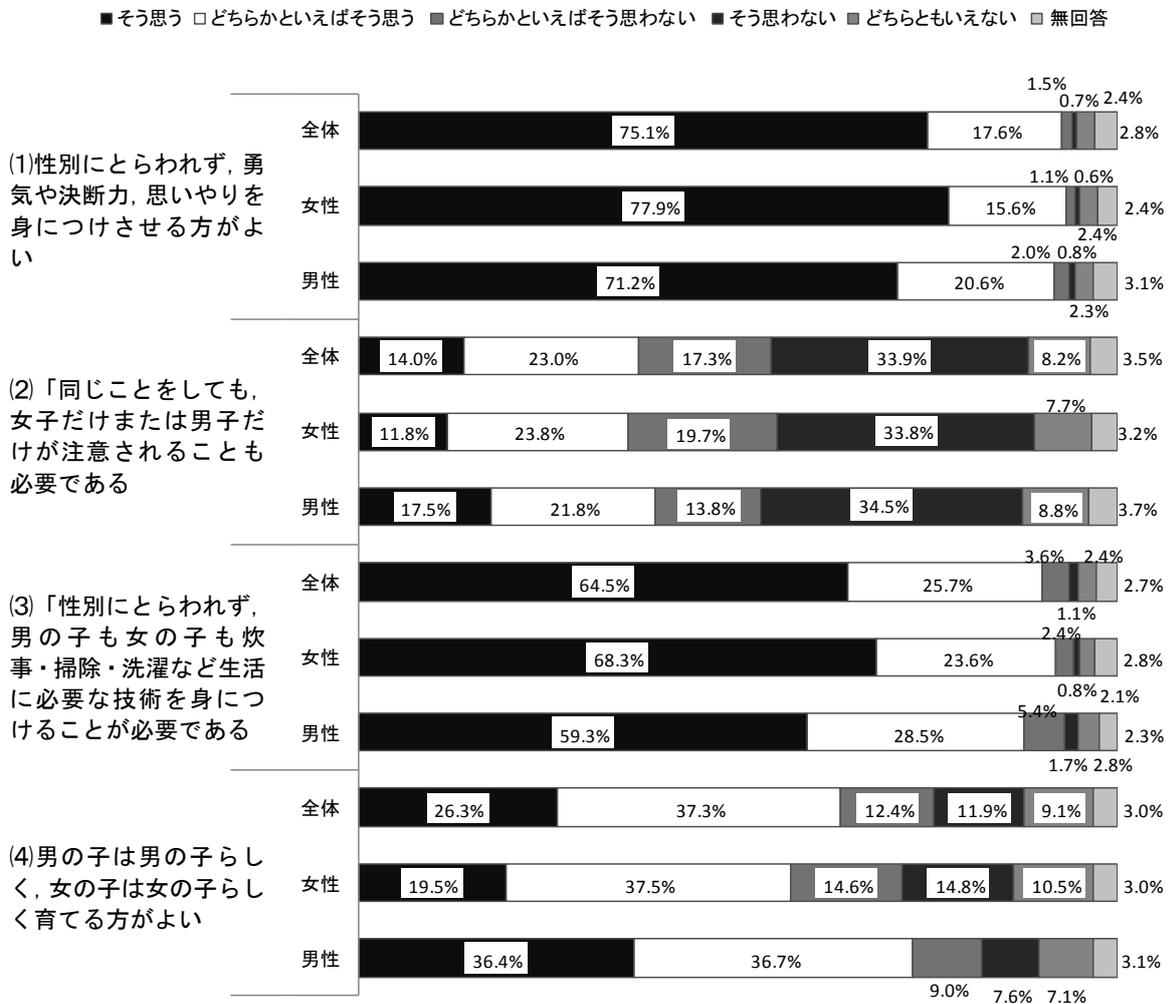
「そう思わない」の割合は女性が 53.5%、男性が 48.3%となっています。

(3) 「性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である」について、「そう思う」の割合は女性が 91.9%、男性は 87.8%となっています。

「そう思わない」の割合は女性が 3.2%、男性が 7.1%となっています。

(4) 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」について、「そう思う」の割合は女性が 57.0%、男性が 73.1%となっています。

「そう思わない」の割合は女性が 29.4%、男性が 16.6%となっています。



※ 「そう思う」は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、「そう思わない」は、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計です。

II 調査の結果

6 社会活動について

問 13 現在参加している社会活動、または今後参加したいと思う活動について

(1) 「子どもや青少年に関わる活動」について

「参加したくない」の割合が女性 51.4%、男性 51.1%となり、女性も男性ももっとも高くなっています。

(2) 「自治会、女性団体など地域活動」について

「参加したくない」の割合（女性 55.2%、男性 57.1%）となり、女性も男性ももっとも高くなっています。

(3) 「趣味のサークル活動」について

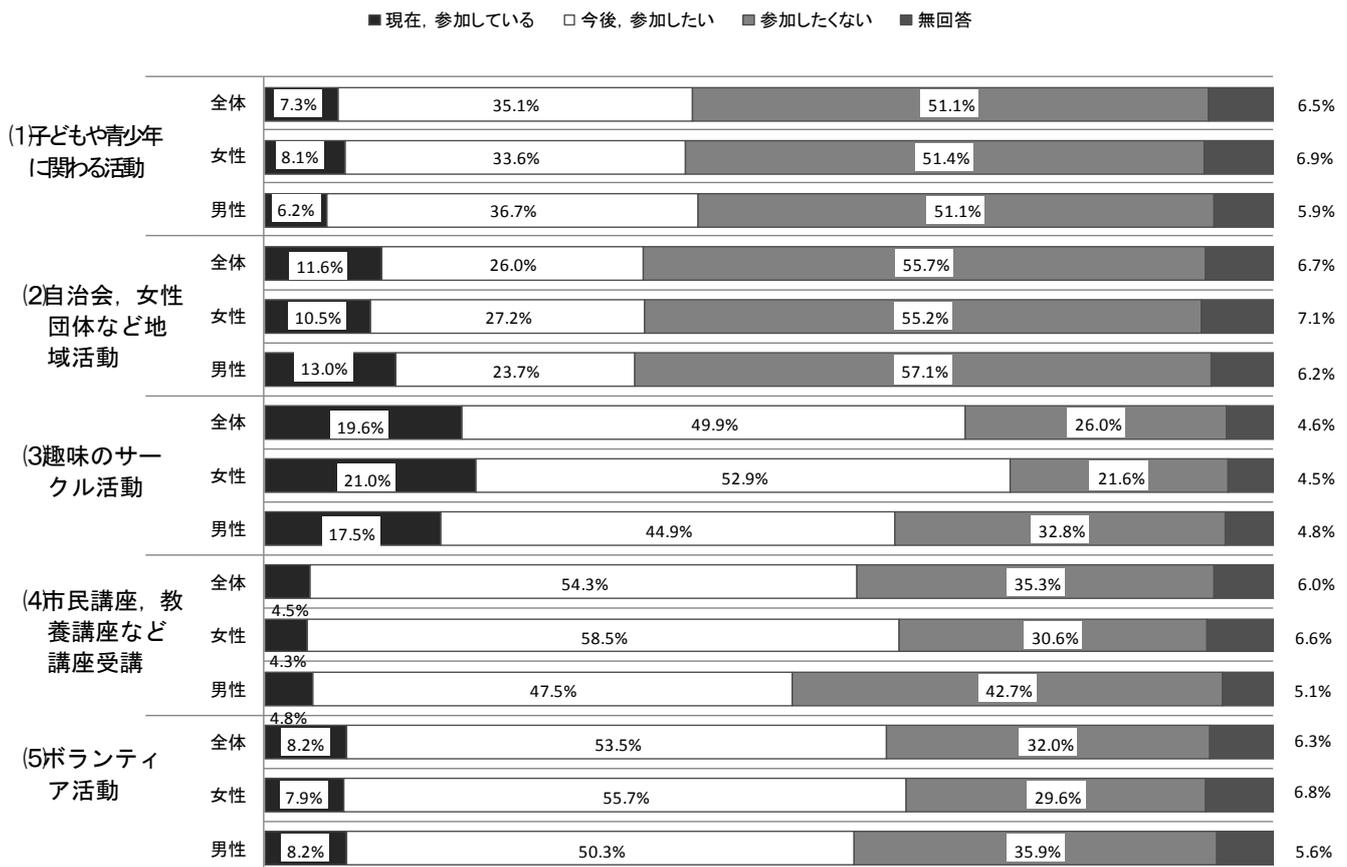
「今後、参加したい」の割合（女性 52.9%、男性 44.9%）となり、女性も男性ももっとも高くなっています。

(4) 「市民講座、教養講座など講座受講」について

「今後、参加したい」の割合（女性 58.5%、男性 47.5%）となり、女性も男性ももっとも高くなっています。

(5) 「ボランティア活動」について

「今後、参加したい」の割合（女性 55.7%、男性 50.3%）となり、女性も男性ももっとも高くなっています。



II 調査の結果

7 少子・高齢化について

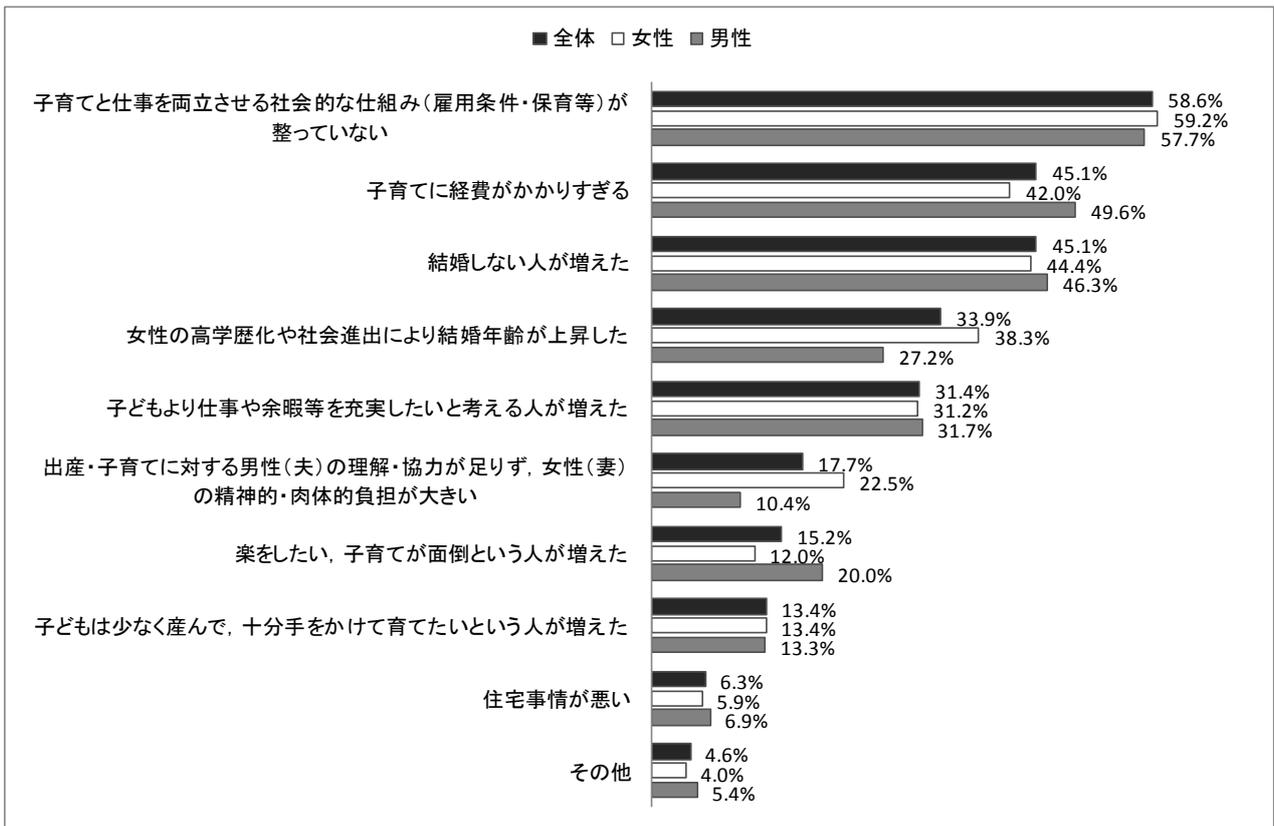
問 14 出生率が低下している原因は何だと思うか（複数回答可）

「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」の割合が、女性 59.2%、男性 57.7%でもっとも高くなっています。

女性は「結婚しない人が増えた」が 44.4%、「子育てに経費がかかりすぎる」42.0%で続いています。

男性は「子育てに経費がかかりすぎる」が 49.6%、「結婚しない人が増えた」が 46.3%で続いています。

仕事と子育てを両立させる社会基盤の整備や子育てにかかる経費の問題があり、子育てしづらい状況にあると考えられています。

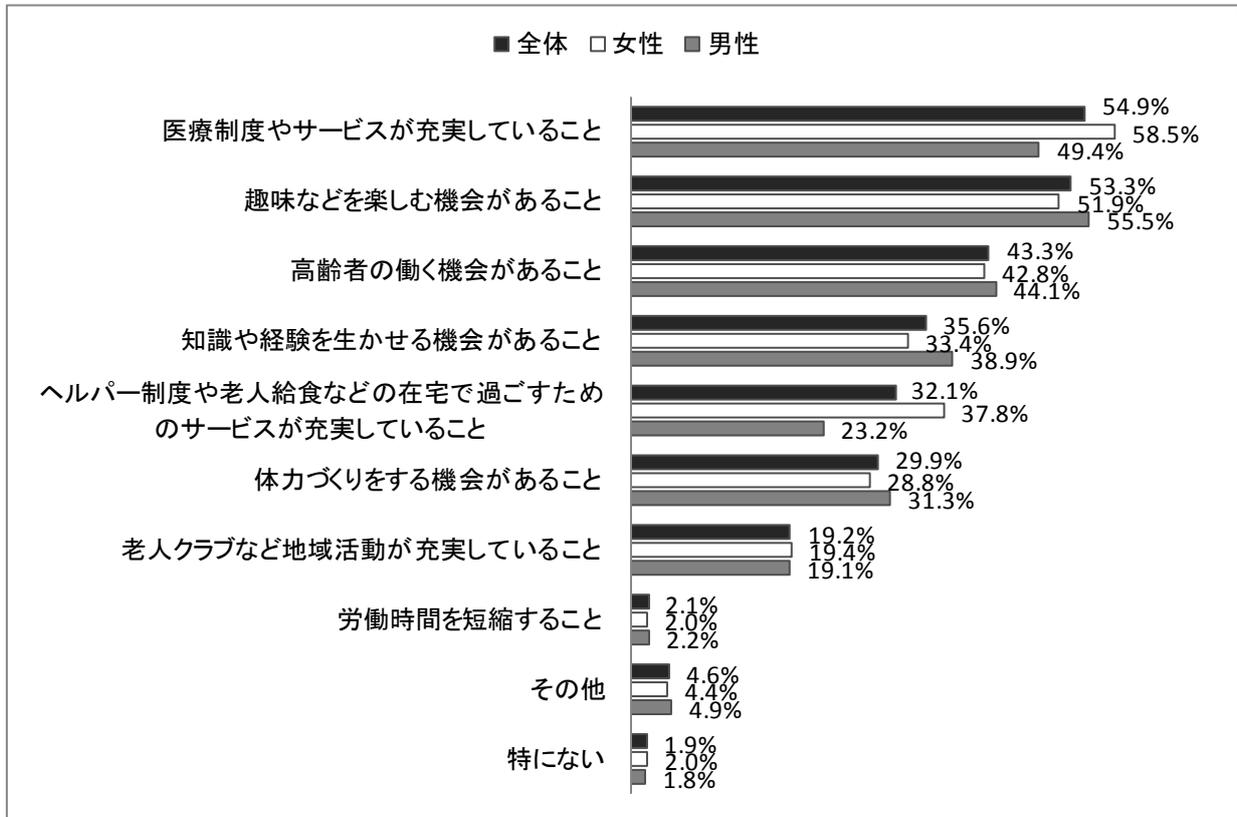


II 調査の結果

問 15 高齢社会の中で豊かに暮らすには、何が重要だと思うか（複数回答可）

女性は、「医療制度やサービスが充実していること」の割合が 58.5%でもっとも高く、「趣味などを楽しむ機会があること」が 51.9%、「高齢者の働く機会があること」が 42.8%で続いています。

男性は、「趣味などを楽しむ機会があること」が 55.5%、「医療制度やサービスが充実していること」が 49.4%、「高齢者の働く機会があること」が 44.1%で続いています。

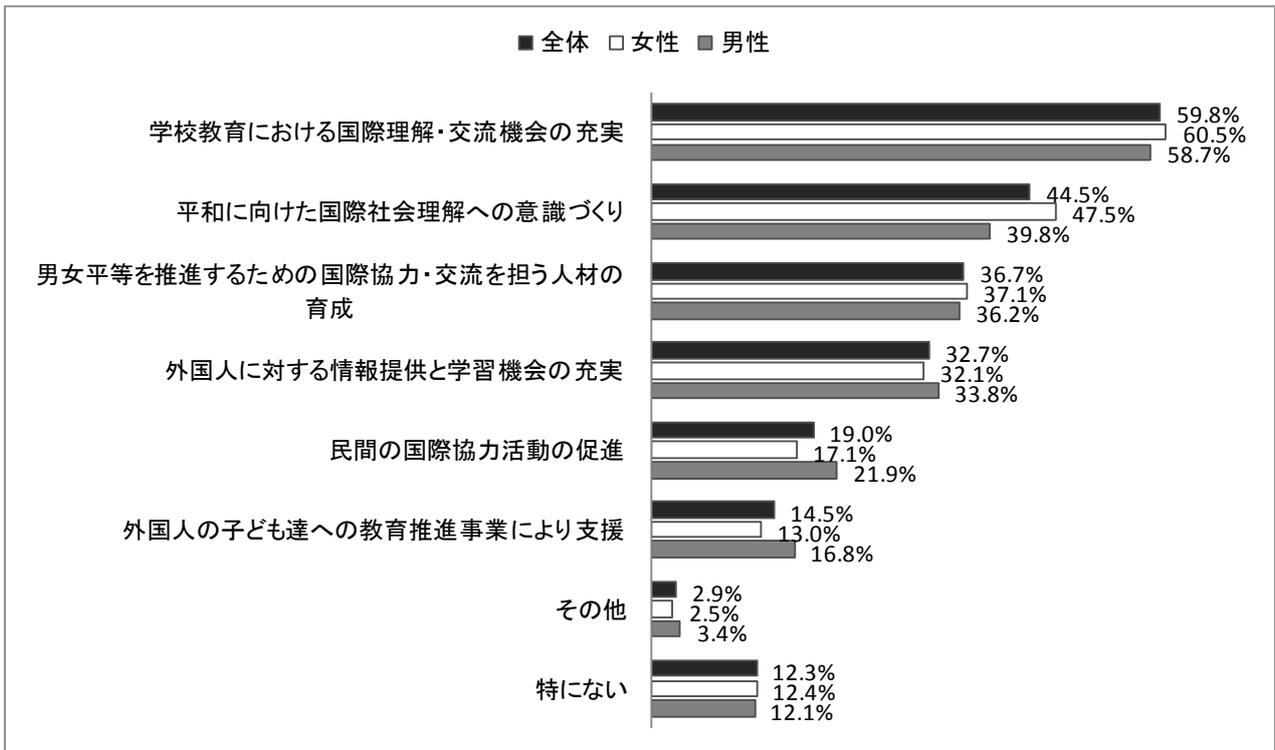


II 調査の結果

8 国際化について

問16 国際化の進展にともない、男女平等の推進に必要とされることについて（複数回答可）

「学校教育における国際理解・交流機会の充実」の割合が、女性 60.5%、男性 58.7%でもっとも高くなっており、「平和に向けた国際社会理解への意識づくり」（女性 47.5%、男性 39.8%）、「男女平等を推進するための国際協力・交流を担う人材の育成」（女性 37.1%、男性 36.2%）で続いています。

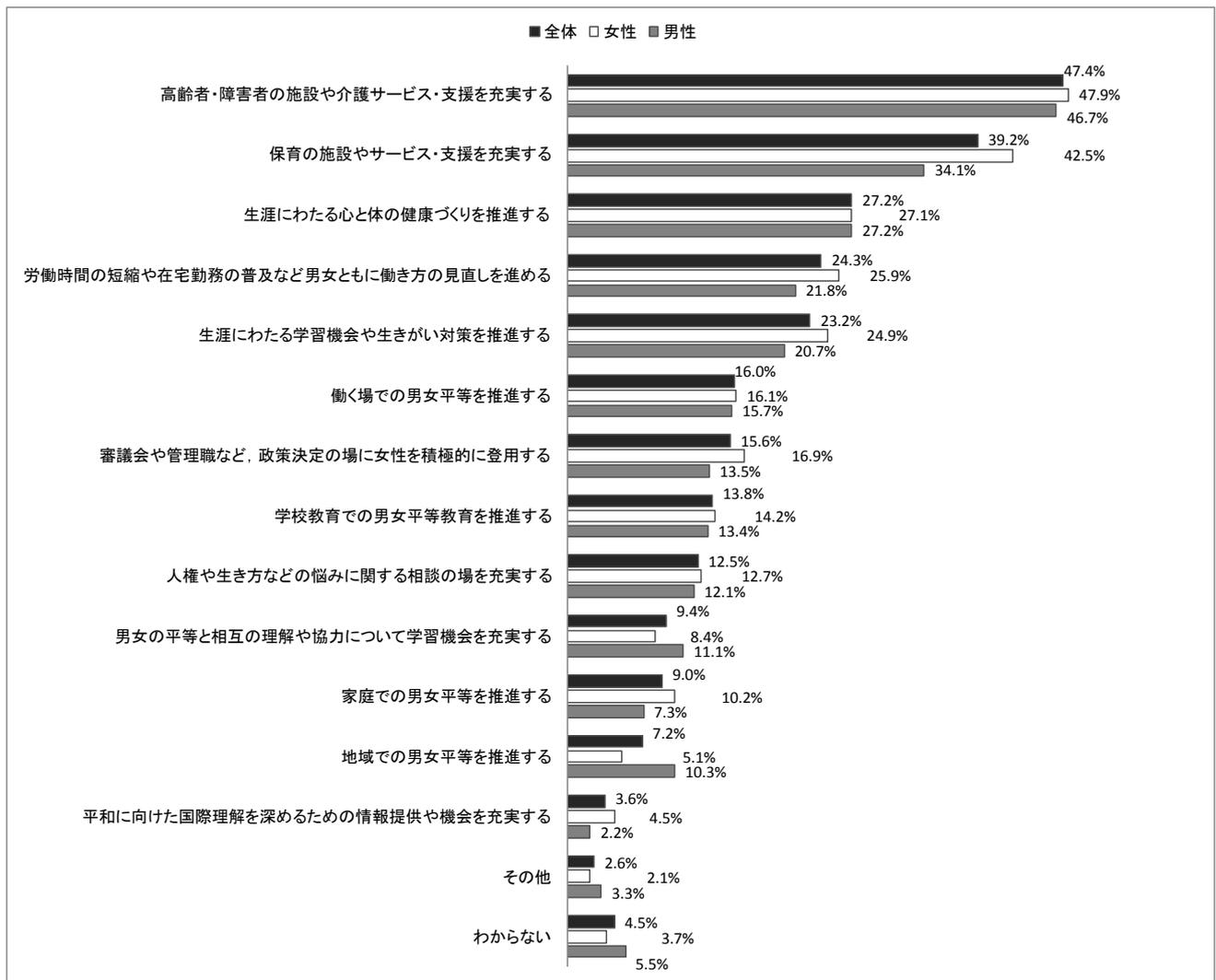


II 調査の結果

9 男女共同参画社会の形成に関する意識について

問17 八千代市に力を入れてほしいと思うことについて（複数回答可）

「高齢者・障害者の施設や介護サービス・支援を充実する」の割合が女性 47.9%、男性 46.7%でもっとも高くなっており、「保育の施設やサービス・支援を充実する」（女性 42.5%、男性 34.1%）、「生涯にわたる心と体の健康づくりを推進する」（女性 27.1%、男性 27.2%）が続いています。



Ⅲ 現状とまとめ

Ⅲ 現状とまとめ

1. プロフィール

今回の調査では、市内にお住まいの16歳以上の市民2,500人に郵送し、890人に回答のご協力をいただき、うち女性は59.9%、男性は39.8%でした。

回答者の年齢は、男女ともに各世代から回答をいただきました。

世帯の状況は、世帯全員で1~4人が男女ともに8割以上となっています。

有職率は、女性約4割、男性約6割となっています。

2. 男女の地位について

(1) 社会全体として、男性の方が優遇されていると感じる割合が多く、男女共同参画の進捗状況は十分ではない

「学校教育の場」、「地域活動」、「健康づくり・福祉において」は「平等」と感じている人の割合が高くなりましたが、「家庭生活」、「職場」、「政治の場」、「法律や制度上」、「社会通念・意識・慣習・しきたり等」、「国際社会」、「社会全体」において、「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合が高くなり、男女共同参画の進捗状況は十分ではありません。

また全体として、「男性の方が優遇されている」と感じている項目が多く、「女性の方が優遇されている」と感じている項目が少なくなりました。

3. 家庭生活等について

- (1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考えに「反対」より「賛成」の割合の方が高い
- (2) 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考えに「賛成」の割合は80代以上、「反対」の割合は10代でもっとも高くなっている
- (3) 現在の家事・育児・介護の分担は、理想と現実には差がある

「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について、「反対」より「賛成」と回答する割合の方が高くなり、女性と男性の役割を区別する考え方である固定的性別役割分担意識が強く根づいている状況にありました。年齢別に見ると、女性も男性も「賛成」とする者の割合は80代以上、「反対」とする者の割合は10代で、それぞれ高くなっています。若い世代において固定的性別役割分担意識によらない考え方の割合が高く、年齢が高くなるにつれ徐々に固定的性別役割分担意識を持つ人の割合が高くなっています。女性では、50代以上の半数以上が「賛成」、男性では女性と比べて全体的に「賛成」が多く、特に80代以上では93.3%となっています。

Ⅲ 現状とまとめ

平成 21 年全国調査と比較すると、八千代市では「賛成」の割合が 55.4%、「反対」の割合が 33.5% となっており「賛成」の割合が高いのに対し、全国調査では「賛成」の割合が 41.3%、「反対」の割合が 55.1%となっており「反対」の割合が高くなっており、意識改革が少し遅れている傾向にあります。

また家事・育児・介護の分担については、現在は「家族の中の女性」の割合が高いが、理想では「家族の中の男女同程度」の割合が高くなっており、理想と現実には差があることがわかりました。

共働きの割合について、国、千葉県調査と比較すると、共働きをしていない割合は今回の調査では 46.0%、県調査では 49.5%、全国調査では 44.9%でほぼ同数であったものの、共働きをしている割合は今回の調査が 28.4%、県調査が 48.4%、全国調査が 55.1%と大きく開きがあり、夫婦とも働いていない割合が高くなりました。

4. 職業について

- (1) 職場での仕事内容や待遇の面で、性別による差別はないと感じている人の割合がもっとも高い
- (2) 性別による差別があると感じる回答者は、「仕事の内容」で感じている割合がもっとも高い
- (3) 男女が共に仕事と家庭を両立していくための環境整備は「地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」が必要と感じる割合がもっとも高い
- (4) 女性の職業について「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と考える割合がもっとも高い
- (5) 女性の就業に対する反対意見はほぼない
- (6) 指導的地位に占める女性割合が増えることについては、70%以上の人が賛成である

職場での性別による差別について、差別はないと感じている割合がもっとも高くなりました。

性別による差別があると感じる女性の回答者で、男性の方が優遇されていると感じている場合「賃金」、女性が優遇されていると感じている場合「仕事の内容」で感じる割合がもっとも高くなり、男性の回答者で、男性の方が優遇されていると感じている場合「昇進・昇格」と「仕事の内容」、女性が優遇されていると感じている場合「有給休暇や育児休業、介護休業の取得のしやすさ」で感じる割合がもっとも高くなりました。

現在職業を持っていない人が働いていない理由として、女性は「年齢面の制限のため」、男性は「定年退職したから」といった年齢の面での理由が多くなりましたが、女性は次いで「子育てとの両立が困難だから」の割合が続いており、仕事と子育ての両立支援が必要な状況となっています。

男女が共に仕事と家庭を両立していくための環境整備は、「地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」が必要と感じる割合がもっとも高くなり、多様なライフスタイルに対応した子育て支援の充実を求める意見が多くなりました。

Ⅲ 現状とまとめ

女性が職業をもつことについて、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と考える「一時中断・再就職」支持の割合は47.2%、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と考える「継続就業」支持の割合は25.2%となっており、「一時中断・再就職」支持が「継続就業」支持を上回るとともに、「女性は職業を持たない方がよい」等の女性の就業に否定的な意見はほぼありませんでした。そのため、再就職の支援をするとともに、就業継続支援の拡充が必要な状況となっています。

平成21年の全国調査と比較すると、「一時中断・再就職」支持の割合は31.3%、「継続就業」支持の割合は45.9%となっており、「継続就業」支持が「一時中断・再就職」支持を上回り、女性の就業を肯定的に捉える傾向が強くなっています。

女性の就業状況については、平成19年の前回調査では女性の有業率が27.1%であったものが、今回の調査では4割を超え、女性の就業者は増加しています。

また、さまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増えることについて、肯定的な意見が7割を超えました。

5. 教育について

- (1) 学校教育の場については、約6割の人が男女平等だと考えている
- (2) 性別にとらわれない教育の意識拡大がうかがえる

「性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい」、「性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である」は、「そう思う」の割合が約9割となり、性別にとらわれない教育の意識拡大がうかがえます。

学校教育や生涯学習を通じて、男女平等の意識を養うことにより、性別にとらわれることなく、一人ひとりの個性や能力を尊重し、自立した人間として考え、判断し行動できるよう、男女平等の視点に立った教育を行う必要があります。

6. 社会活動について

- (1) 趣味のサークル活動、市民講座などの講座受講、ボランティア活動に「今後、参加したい」という割合が高く、参加意欲がうかがえる

趣味のサークル活動、市民講座などの講座受講、ボランティア活動に「今後、参加したい」という回答者の割合が高くなり、社会活動や生涯学習に対する参加意欲、社会への貢献意欲がうかがえます。

しかし、子どもや青少年に関わる活動、自治会・女性団体など地域活動に対しては「参加したくない」が50%を超え参加意欲が高くなく、地域社会への参画促進や生涯学習への支援、地域での子育て支援体制の充実が必要な状況にあります。

7. 少子・高齢化について

- (1) 出生率が低下している原因は、「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組みが整っていない」と感じている人の割合が高い
- (2) 高齢社会で豊かに暮らすには、「医療制度やサービスが充実していること」と感じている人の割合が高い

出生率が低下している原因は、「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」と感じている人の割合が高くなりました。次いで、「子育てに経費がかかりすぎる」や「結婚しない人が増えた」の割合が高くなっており、仕事と子育てを両立させる社会基盤の整備や子育てにかかる経費の問題があり、子育てしづらい状況にあると考えられています。育児・介護休業法に規定されている育児休業、介護休業、子の看護休暇制度、勤務時間短縮等の措置等について周知を図るといった子育てと仕事の両立のための制度の定着促進・充実を図る必要があります。

高齢社会で豊かに暮らすには、「医療制度やサービスが充実していること」と感じている人の割合が高くなりました。高齢者が安心して暮らせるように、健康づくり支援、介護予防のための取組み、介護サービスの充実を図る必要があります。

また、「趣味などを楽しむ機会があること」と感じている人の割合は5割以上であることから生涯学習の推進、「高齢者の働く機会があること」と感じている人の割合が4割以上であることから就業支援の推進が重要な状況となっています。

8. 国際化について

- (1) 男女共同参画の視点での国際化に「学校教育における国際理解・交流機会の充実」が必要と感じる人の割合が高い

国際的な視野での男女平等の推進・施策の視点から必要とされていることは、「学校教育における国際理解・交流機会の充実」であると感じる人の割合が高くなりました。国内での男女共同参画を推進するにあたり、女子差別撤廃条約を始めとして男女共同参画に関連の深い国際的な条約、取組みや基準を積極的に取り入れるように努め、国際理解を深めるため、子どものころからの国際化についての学習、交流機会の充実を図る必要があります。

9. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

- (1) 八千代市に「高齢者・障害者の施設や介護サービス・支援の充実」を望む人の割合が高い

八千代市に「高齢者・障害者の施設や介護サービス・支援の充実」を望む人の割合がもっとも高くなり、高齢者・障害者の社会参画に対する支援や、安心して暮らせる介護体制の構築の促進を図

Ⅲ 現状とまとめ

る必要があります。

また、「保育の施設やサービス・支援の充実」を望む人の割合も4割近くあり、福祉に関するサービスのニーズが高くなっております。

【今後に向けて】

男女共同参画社会を実現するためには、政治の場や職場、家庭や地域、教育等あらゆる分野において男女がともに参画することがきわめて重要です。男性も家庭や地域活動に参画することができるようなライフスタイルの普及、女性の社会進出のサポートや能力が正当に評価される社会づくり、保育・介護のサービスや支援の充実等、国・県・近隣市や市民・地域団体・企業等と連携し、実践的に男女共同参画社会づくりを進める必要があります。今回の調査結果を今後の施策や次期プランに反映させ、男女共同参画社会づくりを進めてまいります。

① 男女の地位について

学校、地域等では平等と感じている人の割合がもっとも高くなり、分野別には男女の地位の平等に対する意識の進捗が見られます。しかしながら、社会全体として男性の方が優遇されていると感じている割合が高くなっています。また、性別役割分担意識については、反対より賛成と回答する人の割合が高く、男女共同参画意識が浸透しているとは言えない状況にあります。全国調査と比較すると、全国では反対の割合が高いのに対し、八千代市では賛成の割合が高くなっており、意識改革が十分に進んでいるとは言えません。引き続き男女平等の意識改革を拡充して推進する必要があります。

② 家庭生活・地域社会への参画について

現状は女性が行っている割合が高いものの、男女がともに協力し合うことが理想であるという割合が高くなりました。男性の家庭・地域社会への参画を進めることは、男性・女性双方にとって、多様な生き方を選択できることにつながるものであり、男女共同参画社会の実現のために必要不可欠です。そのため、仕事と家事・育児・介護等との両立ができるような仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進や、家庭生活・自己啓発・地域活動等を充実させるための支援を行い、多様なライフスタイルに対応し、女性も男性もあらゆる分野で能力を発揮しやすい環境づくりを行う必要があります。

③ 社会活動について

サークル活動、市民講座などの講座受講、ボランティア活動に「今後、参加したい」という回答者の割合が高くなり、社会活動や生涯学習に対する参加意欲、社会への貢献意欲がうかがえます。しかし、子どもや青少年に関わる活動、地域活動に対しては「参加したくない」が50%を超え参加意欲が低く、地域社会への参画促進や生涯学習への支援、地域での子育て支援体制の充実が必要な状況にあります。

Ⅲ 現状とまとめ

④ 職業について

男女平等と考えている人の割合は、回答者全体では 20.0%ですが、現在働いている人では 40.6%となっており、実際の職場では平等感が出ています。しかし差別があると考える人の中では、賃金は男性優遇、仕事の内容は女性優遇の差別があるとの割合がもっとも高くなり、改善を求められています。

⑤ 女性が職業をもつことについて

「一時中断・再就職」支持の割合は 47.2%、「継続就業」支持の割合は 25.2%となっており、再就職の支援をするとともに、就業継続支援の拡充が必要な状況となっています。

⑥ 男女共同参画の視点での国際化について

国内での男女共同参画を推進するにあたり、女子差別撤廃条約を始めとして男女共同参画に関連の深い国際的な条約、取組みや基準を積極的に取り入れるように努めるとともに、学校教育・生涯学習を通じての子どもたちからの国際理解についての学習、交流機会の充実を図る必要があります。

⑦ 八千代市に力を入れてほしいものについて

「高齢者・障害者の施設や介護サービス・支援の充実」や「生涯にわたる心と体の健康づくりの推進」を望む人の割合が高くなったことから、高齢者・障害者の社会参画に対する支援や、安心して暮らせる介護体制の構築の促進を図る必要があります。

また、「保育の施設やサービス・支援の充実」や「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直し」を望む人の割合も高く、子育て支援体制の充実や、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進を行い、子育て家庭を行政や地域が支援できる条件整備を図る必要があります。

IV 自由意見

IV 自由意見

No.	性別	年代	自由意見
1	女性	10代	男女が平等に暮らせたりと言うのは、なかなか改善されないが、こうしてアンケート等で市民の声を聞く姿勢を続けてほしいと思う。そして国までこの声を責任を持って届けてほしい。この活動を定期的に続けてほしいです。頑張ってください。
2	女性	10代	何よりもお互いを理解し、協力し合っていくことが大切だと思う。
3	女性	10代	田舎であるため、昔のしきたりを重んじる老人が多く、若い人が思うように行動できていないと思う。解決策としては、老人に今後のあり方を学習してもらう機関を設ける必要がある。
4	女性	20代	東京が中心の中で、千葉や八千代市に人が集まり、目を向けてもらえるように活動をしてほしい。市が活発になり、明るく住みやすくいきいきと暮らすことができると思う。
5	男性	20代	介護費用が保険等でカバー出来る制度を導入すべし（介護が必要になった時の施設入所の条件の緩和）。
6	女性	20代	今はまだ子どもの看病のための欠勤に対して、職場の理解がなく、様々な職場で働く女性が肩身の狭い思いをしています。いろいろな面での会社への理解が得られるようになってほしいです。
7	男性	20代	雇用の安定、地域社会の絆を深める仕組み。
8	男性	20代	男性、女性となぜいちいち言うのか。わからない。男性のやるべきこと、女性のやるべきことはそれぞれ別です。体力、気力、統率力など男性の方がすぐれているし、やさしさ、気づかい、細かいところに気づくことは女性がすぐれている、それをのばす方がよい。
9	女性	20代	仕事が出来ずに金銭的な補助を受けても、一時だけ落ち着きましたそのような状態に陥りやすいと思う。やはり女性が子供を産んだ後も仕事（パート）に出られるように社会全体を変えていかなければならないのではないかと思います。
10	女性	20代	・職場や社会での男女平等だけでなく、家族と一緒に過ごせる時間など、それぞれに余裕を持てるような環境が必要。（夫の育児参加、妻の家事負担軽減などにつながる） ・働く場で女性に対し男性と平等にという動きも大切だが、女性への労働の押し付けにならないか不安。家事・育児の重要性も損ねないようにと願っています。
11	女性	20代	今までは男女ともに損することが多く男女平等が偏っている。
12	女性	20代	男女お互いが参加できる地域活動を増やし、老若男女問わずに楽しめる機会があるといいかと思えます。
13	女性	20代	地域の結びつきが大切だと思います。地域の交流を通して、八千代市民の皆が地域ごとにコミュニケーションを濃くして、生活することによって、男女ともに安定したいきいきとした生活を送れると思います。
14	女性	20代	女性には子どもを産み、育てるという大切な役割があるが、それによって働く機会がかなり少なくなってきた。私自身も婚約はしているが、仕事が楽しくまだまだ働きたいというのが本音なので、結婚（＝出産、育児）を先延ばしにしています。でも子どもは3人欲しい。会社に育児休業の制度はあるが、子どもができたなら辞めるしかないというのが現実。女性が出産・育児を安心してできるような社会ができれば少子化問題は良くなってくると思う。
15	女性	20代	男女平等という権利や利益ばかり求めて、その後の責任や負の部分についてはしっかり背負えていないと思います。その部分も明らかにして、情報提供すると良いと思います。
16	女性	20代	男女平等という言葉は一見素敵なものに思えますが、本当に男女を平等にしようとする女性には負担でしかありません。その理解を男女共に（特に女性）深めることが必要だと思います。女性らしく生きることは女性の性には必要だということ、男性とは違う良いところや体験が多くあること（出産等）を深く理解した上で、平等というものを考えて頂きたいです。
17	女性	30代	男女には持って生まれた違いがあり、役割も違います。女性に男性と同じ生き方を強いて少子化を進展させるより、子育てを終えた女性が働く意欲を持つ場合に社会復帰しやすい仕組みを考えていただきたいです。男女平等の無理強いを女性を幸せにしないと考えます。
18	女性	30代	思いやり。
19	女性	30代	高齢者ほど男女差別がひどいと思う（若い女性をバカにする態度をとる男性が非常に多い、60代～70代）学校教育などは男女差別のない教師を選ぶべきだと思います。
20	女性	30代	育児休暇などきちんととって職場復帰できる環境をつくって頂きたい。
21	女性	30代	保育施設が少ない（施設があっても定員が少ない）ので増やしてほしい。仕事をする人のためだけでなく、子育てをしているお母さんの息抜きがもっと気軽にできるように、一時保育枠を増やしてほしい。

No.	性別	年代	自由意見
22	女性	30代	私は看護師で現在デイサービスで働いています。女性であっても看護師の資格があると男女の性差を感じることなく職場復帰も問題なく不便を感じることはない。しかし家事・育児は女性ならではの一種の職業であり、女性の特性を活かしたもので、やはり向き不向きはあるにしても基本的には女性がやった方が良くと思う。家事も育児も女性を必要としているもののような気がします。
23	女性	30代	夫婦や親子連れで共に参加できるような市民講座を増やして。
24	女性	30代	とにかく日本は労働時間が長すぎる。これでは、夫に育児や家事を手伝ってもらえない。
25	女性	30代	年齢男女問わずいろいろな人が一緒に活動できて楽しめる場所を作っていって良いと思います。
26	女性	30代	男女の平等とは何か。体の作りが違うものを同じ扱いをしていいものなのか、違いを認め、お互いを尊重することが大切だと思う。男性が女性を守る、という昔ながらの考えを否定することなく、柔軟な対応をすべきだと思う。
27	男性	30代	男女共に若い人から高齢者、障害者が交流できる場を積極的につくる。高齢者、障害者が働ける場を市や県が積極的に作り、地域の産業に貢献できるようにする。
28	男性	30代	労働条件を男女に関わらず平等にすること、高齢者に適した仕事を与えること。
29	男性	30代	女性の社会進出は必要だが、それは仕事を意味するのではない。こどもの犠牲や非行となってリバウンドするだけだ。男は男らしく、女は女らしく教育することが国際社会では重要、弱々しい男、乱暴な言葉を使う女などはそもそも社会が壊れてきた証拠と言える。
30	女性	30代	地域の協力なしでは、住みにくくなってきたので、地域の中で対策を考え支援して欲しい。
31	女性	30代	いろいろな世代の人が交流できるような機会をどんどん作って欲しい。おじいちゃん、おばあちゃんたちに若いお母さん、お父さん、子どもたちが何か教えてもらえるような。(郷土料理教室や昔遊びなど)
32	女性	30代	出産を機に仕事を辞めました。妊娠中に過酷な勤務を要求されたので。いずれ復帰するつもりですが、保育所は育休明け等仕事が決まってないと利用が難しいと言われました。預かってもらえないと就職決められないのに。また、定員があり近く保育所は無理で遠くの保育園を利用する事を強いられる事もあると。出産は素晴らしい経験だけど、女性は不利だと実感しました。このような点が改善される事が必要だと思います。
33	女性	30代	男女どうたう事自体分け隔てている気がするので「やちよ市民共生…」でいいと思います。
34	女性	30代	子育てに関し、妻の口から夫に協力を求める事が難しい事がある。勉強会を開いたり、父子手帳等の発行をしても、非協力的な夫は参加しないし、読みもしないし、もっと強制的に育児への参加、理解を深めさせられるようなシステムが欲しい。
35	女性	30代	近隣の市に比べて学童保育料が高い。子を持つ母親の職場復帰が厳しいのでは。
36	男性	30代	若年層への生活保障、職業訓練。男女平等社会の前提となる「社会」の崩壊をまず防ぐこと。
37	女性	30代	保育料が高い、保育所が少ない。
38	女性	30代	子育てにひと段落した女性が社会復帰し、男性並みの給与をもらうことは、不可能に近い状態か。相当な資金を使っての自己啓発が必要。家庭内の男女の立場が男女平等を推進している割には、何十年前と大差ないのではないか。
39	男性	30代	男女平等は無理だと思います。いきいきと暮らすには、ゆとりある収入が必要だと思います。男の人は仕事を頑張り、女の人は家庭を守り、問題事には2人で考えればよいと思います。
40	男性	30代	男女平等の社会を作るのもいいが、それよりも八千代市民の育児やマナーの質が非常に悪いのをなんとかしなければいけないと思う。
41	男性	30代	さまざまな場面で老若男女を問わず交流できる機会が増えれば良いと思います。
42	女性	30代	まだまだ「男女平等」は表向きにしか感じられない。市長も議員も女性が増えて、こまやかな視点でいきいきした八千代になってほしい。
43	女性	30代	それぞれの意識が重要だと思います。それにともない、国や地方自治体の細かい改善を期待します。
44	女性	30代	あたりまえの事ですが、資質のちがいを理解して足りないところを助け合い補い合う事、そしてお互いに必要だと認識する事が大事だと思います。体調が回復したら子供(結婚も仕事も)を考えたいので、将来暮らしやすく希望の持てる八千代市にして頂けることを期待しています。
45	女性	30代	男性らしさ、女性らしさ、それぞれの個性を豊かにし、お互いを尊重し合え、補える社会づくり。
46	女性	30代	一人一人がお互いを尊重し、協力し合い、助け合うことが大切である。相手を思いやる精神、認めあう心が基盤となって、老若男女が豊かに幸せに暮らすことができるのではないかと思います。

No.	性別	年代	自由意見
47	女性	30代	とても難しいテーマだと思います。第2弾のアンケートで意見を聞くのもいいと思います。皆の意見全てを取り上げてくれなくても、皆が興味のあるもの、問題としているものについては深く考えて欲しいと思います。
48	女性	30代	男女平等はなかなか難しいと思う。どんなに頑張っている女性がいても、仕事が大変だと実家に戻れば良いと考えたり、結婚するから辞めてしまう等の考えを持った女性がいる限り、平等に見てもらえないと思う。親も含め、最後は家庭や実家に戻れば良いという考え方を変えていってほしいと思う。
49	男性	30代	お互いの理解。
50	女性	30代	色々な人の話を聞いて生活のヒントや考え方（見方）が変わることがいきいきと暮らすことにつながると思う。まじめな物からゆるい物まで様々な講演会などが数多くあるといい。
51	女性	40代	男女共同参画というテーマのアンケートなので、母子家庭の私には答えにくい質問もありました。私が母子家庭になった頃からみたらまわりの理解はある様になったと思います。やはり1人で子育てをするというのは大変な事です。もっと支援が必要だと思います。
52	女性	40代	思いやりを育てる教育をしていくこと。
53	女性	40代	年金の問題や、高齢者が医療費その他年金や色々な事で困らないよう不安にならないようにしてほしい。
54	女性	40代	八千代市に住むようになってから10年余りになるが、八千代市民としての意識・愛着が身に付かない。生涯暮らすには不安がある。年をとっても働く場所があり、お年寄りが人と集う機会があり、その情報が届けられる、活動が充実している八千代市になってもらいたい。又、若い人が住みたい街になってほしい。
55	女性	40代	男が女がというより、個々の希望によってだと思う。なので、それに対応、つまり男でも女でもいいと思うので、性で決まる事はない方がいい。家族内については、それぞれの事情で良いと思うが、それ以外では1人の人とみればいいのであって、男・女は関係ないと思う。男性の方が給与が高い、勤務時間が長い、この点を変えていってほしい。家族を養える給料をもらう人が働き、長時間勤務のため家のことは妻任せになってしまう、こんな構図だと思うので。
56	女性	40代	男女が真にいきいきと暮らすためには、それぞれの性差を認め、そしてお互いを尊敬することが必要なのだと思います。今の「男女平等」というのは、男目線のものの様に思います。女が男と同じ仕事をするのが平等であるなどと誰が決めたのでしょうか。それこそがすでに男目線の考え方だと思います。男らしさ、女らしさの復権を望みます。
57	女性	40代	雇用の安定が、一番大切だと思います。仕事が安定していたら生活も充実できると思います。
58	女性	40代	男女が平等に暮らすために必要なことは、男性は男性らしく、女性は女性らしくあればこそだと思います。
59	女性	40代	自分には、介護を必要とする者はまだおりませんが、もし、いるとすればやはり母や私が家に居て介護に専念しなければならないと思います。そうすれば男性はなおさら外で遅くまで働き、家のことはできないという悪循環が生まれ、豊かな生活はほど遠くなると思います。知り合いに老人ホームに祖母をあずかり、心を病んだ家族をもつ人がたくさんいます。なので老人ホームで働く人や、ヘルパーさんを優遇して余裕を持って働くことができるよう、もっと人を増やせる様にして欲しいです。私も介護の仕事に興味があるので。
60	男性	40代	八千代市周辺にもっと多くの女性の働ける雇用があるとよいと思います。
61	女性	40代	男性に対する思いやりが必要、もちろん性差を理解した上で。
62	女性	40代	特にありませんが、農家の為、現在は平等と思っています。なので同じ仕事をして同じ目標があれば、生き生きと暮らせるのではないかと思います。
63	女性	40代	保育時間の延長は、絶対に反対！！子どものみ負担です。
64	女性	40代	市に力を入れて頂きたいのは、何よりも「まちづくり」です。歩道が曖昧な通学路を抜け道として暴走するトラック、そんな環境で育つ子供達は、やがて「道路はそういうもの」として運転し始めます。殺伐とした雰囲気が町全体に広がれば、将来、人（男女）が豊かに生き生きと暮らすことなど不可能です。国際交流云々の前に「まちづくり」を考えてください。
65	女性	40代	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いが思いやりの心を持つことが大切だと思う。 ・男だから、女だからとか枠にはめるのではなく、その時、その場に応じた柔軟な考えを持つことが必要だと思う。 ・参加したい、と思うような地域活動の場が少ないと思います
66	女性	40代	家庭内でのお互いの理解、家事等の協力。
67	女性	40代	皆が手軽に使えるような公共施設を増やし、体力作りや趣味が楽しめ、配偶者がなくなっても不安にならないような環境作りが必要だと思います。

No.	性別	年代	自由意見
68	男性	40代	互いに理解を深めること。
69	男性	40代	お互いの違いを理解、認識することから始まる。どうしたら、いきいき暮らしやすくなるのか話し合う機会が必要。
70	男性	40代	若い人が暮らしやすい人にやさしい市政を行うために、このような男女共同参画社会への基盤作りは必要だと思うし、よい取り組みだと思います。
71	女性	40代	そもそも何をもちて平等と言うのが問題。女性が働きやすい環境として、出産前後の産休・育休・時短などがあるが、働く本人にとってはある意味充実してきた制度だが、周囲にとっては必ずしもそうではない現状がある。
72	女性	40代	いきいきと暮らすかそうでないかは社会よりも自分がどう思っているかが一番大切だと思う。まず自分で何ができるのか何をしたいのか充実した生活を送るために自問することだと思う。
73	男性	40代	男女はそれぞれの特性も性格もらしさもちがうので、それぞれの平等を考えるのに山をけずって谷を埋めるような平等の実現の仕方ではいけないと思う。真にそれぞれの特性をいかした平等の実現を望みます。
74	男性	40代	男女平等とか社会で言われてきていますが、男らしさ、女らしさを大事にしなければ男女平等はあり得ない。互いに男と女はそれぞれの足りないものを補完するものだから。
75	女性	40代	思いやり、道徳心、常識があれば性別に関わりなくいきいきと暮らすことができると思う。男女共同参画の政策は、国や県に任せてよいと思う。
76	女性	40代	子供を預けてまで働きに行かなければ生活出来ない社会・状況が問題。核家族化の進む中、親の愛情を十分に注がなければならぬ時期にそれが出来ていない。平等とうたう前に生活の基本・家庭の基本をもう一度考え直し、家族や家庭、地域のあり方を考えるべき。平等をうたうのはすでに古いと思う。
77	女性	40代	人がいきいきと暮らすには、安心と夢が必要だと思います。市でも、相談窓口などで対応していますが内容はどうでしょうか。保育園が少ない代わりに幼稚園で時間外保育をしています。利用者の満足度は？確かに、いろいろなサービスがありますが、再検討したり、満足度など把握されていますか？子供の安全が確保されなければ、親は持続して働けません。又、モデルが側にいなければ老いることが恐ろしく感じます。
78	男性	40代	最近、「全てを男女平等にする」という様な考え方が多く見受けられる。テレビや新聞等で「男女平等」を強調しすぎている気がする。男にできること、女にできることを学校や家庭でしっかりと教えるべきだと思う。互いの優劣を理解することで助け合い暮らしやすい社会ができると思う。
79	男性	40代	男女平等を推進して頂きたいと切望しております。
80	男性	40代	雇用の安定、子育て支援の強化、介護サービス支援の強化。
81	女性	50代	子どもからお年寄りまで安心して生活していけるような地域での施設やサービス、支援を充実して、お年寄りの方々も元気に活躍できる場も増やし、環境をととのえてほしいと市に望みます。
82	女性	50代	人は頼られたり、ほめられたりすると気持ちが良いと思う。気分良く生きていく事は、大切だと思う。
83	男性	50代	相互理解が必要だと思います。
84	男性	50代	何をもちて男女平等とするのかよく議論して欲しい。仕事に専念できる父親と家庭をしっかり守る母親がいる家庭は男女平等ではないとするのであれば、その男女平等は正しいのか？しっかり家庭を営まれてこそ子供たちは健康に育つ、役割分担は必要であるし、家庭を守るもの（男でもよいが）が仕事に全力をつぎ込まなくてもよい。
85	女性	50代	お互いの思いやりが大事！
86	男性	50代	職場に対するサポートが必要だと思います。
87	女性	50代	共働きが当たり前になった今、保育所の不足が指摘されています。子ども手当を充実するより、保育所を増やして働きやすい場を作ってあげたらと思います。いくらお金をもらっても子供を預ける場所がなければと思います。
88	女性	50代	社会の中でも家庭の中でもお互いを尊重しあうこと。それには「男女が不安をかかえず毎日の生活を送ることができる安定した社会環境であること」が必要だと思います。
89	男性	50代	お互いの思いやりだと思う。
90	女性	50代	やっぱり助け合い。男も子供を産めれば平等になるのですが、今のところ不可能せめて子育てからでも男女の協力が必要だと思う。小さいころからの教育が大事な気がします。男も女も家のことも仕事もできるようにしたいものです。能力に合った事を男も女もできたらと思います。
91	女性	50代	経済的に不安のない老後の人生の確保。

No.	性別	年代	自由意見
92	女性	50代	男が狩りに行き女が子を育てる…は、大昔から成されている事です。人の生はこれらにふちどりされていると思う。ただ、互いが助け合うことは近年とみにさげばれており、私たちも成長していきたい。原則を守りながら、大勢の子どもたちが安全に育つ良い社会を作っていくべきですね。市の財政がかたよることのない市民を考えた使い道をしていただきたい。
93	男性	50代	男女ともお互いを理解し、認めあうこと。
94	女性	50代	男女がともにいきいきとは…50、60歳代では仕事を終えての生活と思います。まだ仕事社会の中では、女性はかなり低い地位に見られます。子育てをしながらの主婦の扱いはまだまだ低いです。あなたの賃金、金庫はNo.2だからとか、良く働くのは子連れの離婚した人だとか、ずいぶん意識の低い言葉を口に出しますよ。
95	女性	50代	若い世代も身分相応の生活をする事、親世代も子に面倒をみてもらうのは、当たり枚という意識をなくすこと、江戸時代の長屋のような生活をし、時代が劇的に変わったので、男だから女だからという今の常識にとらわれず、浮かせた家賃でゆとりを持つこと。
96	男性	50代	とりたてて男女平等の施策を講ずる意図がよくわからない。男女に関わらず相手を思い尊重することが重要ではないか。
97	女性	50代	問12の3番が特に重要だと思います。今までの日本は古い因習に囚われ、女は家事に専念、男は仕事のみ（男は男であることだけで偉くて家では何もしない）という習慣があった。姑はその掟を死守して人にも押し付ける。今の50代以上はその流れで来ていると思うので、もう変えられないが、これからは学校で男の子にもよく家庭科を教えるべきだと思う。基本的に女が家事をやることになると思うが、男の人でもできることは大事だと思う。将来的にはできれば男女で家事も育児も平等に分担した方が女性の社会進出がより容易になると思います。
98	女性	50代	他人を批判しないで、自分ができる良いことを行う。女性、男性の体力の差、感情面での違いなどを認めて接する。思った事柄を静かに語り合え、静かに聞け、怒りあわない。
99	女性	50代	男女がお互いを認め尊重しあい、それぞれの長所を生かした暮らし方ができればよいと思っています。ただ単に男女の平等と言って同じことをするのは、たぶん無理があると思います。
100	女性	50代	お互いの譲り合いが大切。
101	女性	50代	年老いても働ける場と、生きがいのある場の提供。
102	女性	60代	学習機会や生きがい対策等は、土日祝日も行事を入れて欲しい。
103	女性	60代	今の世の中、男女平等と権利ばかり声高に主張されているように感じます。男性・女性それぞれ違う部分があってあたりまえの事と思います。
104	女性	60代	男だから女だからでなく、お互いが思いやりを持って相手のことを考えつくすことが必要だと思います。
105	男性	60代	家庭円満、健康第一。
106	男性	60代	地域広報が少ないと思っている。
107	男性	60代	八千代市内の農地を市と市民が協力して整備し、地産地消、食料自給率100%を目指す。食生活が人間の活力・行動力の源泉である。
108	男性	60代	高齢者が働かなくても生活できる世の中を作ってほしい。物が高すぎる。
109	男性	60代	この課題は幼少のころからの教育による慣習付けが必要だと思う。
110	女性	60代	おたがいに仕事していないと言いたい事がいえない（共働き）。 女性も男性をあてにせず働いてもらいたい。 介護は男性も平等に担ってもらいたい、特に自分自身の親の介護。
111	男性	60代	男女平等といっても、男女は別の性であるので、生物としての役割分担について、子どもの頃から家庭・学校で教育し、お互いの性と体、能力を思いやりながら、男女で共に暮らせる政治・経済社会確率に向かう施策が必要か？
112	男性	60代	自治会を含め、地域で男女が共に参加しやすい何か一様なボランティア活動とか交流会、簡単な運動会（親子じゃなく広く子ども達と地域の大人達（高齢者に限らず）の交流）、誰でも参加できること、男女関係なく。
113	女性	60代	子供も大人も高齢者もだれもが自由に出入りできる場所がほしいです。ふれあいプラザに行くにしても、巡回バスに乗る迄に自宅から歩いて20分、これだけで足の不自由な人は疲れます。小さな建物でもよいから地域ごとにほしいものです。高齢者が一人ぼつんと家の中にはボケます。ふれあいプラザ迄行ける人はボケません。行けない人をもっと外に出してあげたいです。週1回のデイサービスでは少ないです。これを補うための場所があればと思います。
114	女性	60代	安心して暮らせる環境を整える。公立保育園の充実・民間のみに頼らない、休日、放課後子供がいられる場を提供する。（みんなが野球・サッカーをしているわけではない）

No.	性別	年代	自由意見
115	男性	60代	健康を害したときの支援の充実。
116	女性	60代	まず健康第一、今現在私、夫の介護をしておりますが高齢者にとりましては介護の充実の為に地域全体の協力（介護サービス市として）を、もっともっと、考えてほしいと思います。
117	女性	60代	男性は女性の大切な事を認識してよりよい家庭・実りある社会をつくっていったらと思います。
118	男性	60代	行政の行き届いた支援、協力、助成が何よりも大切と思う。
119	男性	60代	例、車の運転で男性でうまく運転できる人、出来ない人がいるように、女性でも運転がうまく出来る人がいるように、これからは人生において無理せず出来ない人も努力してできるようにすることが良いと思います。
120	女性	60代	高齢者が短時間でも責任をもって働ける場が欲しいその事によって生きがいや健康等プラス面は大きいと思う。
121	男性	60代	働きたくとも働く場所のない人がいます。八千代市で相談に乗って助けてあげて欲しい。
122	女性	60代	男女平等に働くのは賛成だが、子どもの育児・教育は必ずどちらかの目の届く範囲で行って欲しい。一番大切なのは、育児・教育である。温かい家庭が築ける社会であって欲しい。
123	女性	60代	先の問いにあった様に男らしさ女らしさを常に心に持ち、子どもは（つか）がなくなるまで自分で責任を持って育てること、というのは昔から1つ～9つまでと云う、この年まで親の手元から離さない様に努めたいものです。仕事第一はだめ、子どもが可哀相。
124	女性	60代	男女共同参画社会は理想的ですが、全てに置いて対等になることは無理もあると思います。人間としてお互いに思いやりを持って助け合う気持ちが自然に生まれるような社会になって欲しいと思います。
125	女性	60代	お互いに思いやりと尊重と感謝をもって向き合うことが基本だと思います。
126	男性	60代	健康づくりのための施設。
127	女性	60代	男女共同参画社会は現状では難しく思えるが、まず活動が進められていくうちに課題も出て、対策もできると考えます。机上の学習より実践だと思います。男女の性を意識するよりも互いに人間として対等に才能を認めあい責任も分かち合うようになればいいと思います。
128	女性	60代	お互いを思いやり感謝の心を忘れずに日々努力すること。
129	女性	60代	社会が女性の進出、活躍できる場を作る。家事、育児等男女ともに参加する様、社会、学校教育を進めるべく、男女共同参画を促進して頂きたい。
130	女性	60代	定年後（特に男性）に家に引きこもりがちな状態の改善策。
131	女性	60代	夫婦協力して家庭生活を送ること。
132	男性	60代	相互の好み、趣味等を尊重し合うこと。
133	女性	60代	年齢にあまりこだわらず健康であれば働ける場をもっと広げて欲しい。
134	女性	60代	人間が本来持っている力をそれぞれの与えられた状況の中で、他とのコミュニケーションをとりながらお互いを尊重し得るために市議会議員と市長、市の職員、一般市民が同じ土俵で意見交換できる場を近い将来ぜひ作っていきたい。市民の声をもっと身近に行政に届けたい。
135	男性	60代	男女共同参画の現状について、地方自治体、国、その他先進国の各種データを明示し情宣するとともに八千代市として実行すべき事項を決め、担当グループが推進するというような組織づくりが必要。ボランティア活動なども動員し、継続的展開を図り長期間多面的に取り組まねば効果の表れにくい大きな課題である。
136	女性	60代	経済的に自立できるだけの賃金・年金がもっと高く平等であること。
137	女性	60代	男女が平等という考え方が変。それぞれの特性があるそれを尊重しつつ、協力することが大切ではないか。
138	女性	60代	お互いの理解、おもしろいやり、協力。
139	男性	60代	地域での趣味を楽しむ会に出て、気楽に会話する事が大事だと思います。
140	女性	60代	いきいきと暮らすためにはまず健康でなければならないので、病気になる前の対策、予防、運動に力を入れてもらいたい。
141	女性	60代	近年女性の地位向上はそれなりに進んできたとは思いますが、政治につきましては女性議員が少ないように思います。女性議員の活躍できる場を作って欲しい。また、障害者の方の職場確保もお願いします。
143	女性	70代	市内の中でも地域により高齢者の参加する場の有無に差があるように思えますので、地域全般に集いやすい憩いの場が多くできることを望みます。

No.	性別	年代	自由意見
142	女性	60代	安心できる生活保障。
144	女性	70代	退職後も元気な間はボランティアなど集う場が多くあることを願います。老人の集まる場は多くあれば近くを利用できるので…。
145	女性	70代	女の子だからという言葉は赤ちゃんの時からいわないようにする。男の子も同じように、女だから男だからという事はいわない。人間として言うてはいけない。
146	男性	70代	同一の趣味を持ち、常に話し合いの場を設け、何にでも同伴の精神を重んじる生活の確立。
147	女性	70代	お互いを理解したら日頃運動をし体を動かし、食事をしっかりととり、そして多くの人と交流を持つこと。
148	女性	70代	一人ひとりが目的を持って生活すること。
149	女性	70代	男には男の女には女の役目があると思います、だからといって差別とは違います、区割り？だと思っています。それぞれの役目をしっかり自覚して生活することが大事だと思います。そのためには、社会がしっかりと後押しし応援してほしいですね。それではじめて、男女参画社会ができるのだと思いますが。
150	男性	70代	高齢者が増え多くなる世の中です。安心して一生を過ごせるような社会にしてください。
151	女性	70代	聞いてやることだけではどうにもならない。人は家族や皆に支えられて生きられると言う望みをもてるようになってほしいなあ（もっと地域内の繋がりがうまくできるようにして頂きたい）
152	男性	70代	男性は男らしく生きる意識を持つ事が必要ではないか。
153	女性	70代	働く場所のない現在、働く機会を与えられない若者をお互いに支えられないのを残念に思います。昭和初期に生まれて貧しい生活を支えられたのも職場があったからです。
154	男性	70代	地域社会の充実、高齢者の雇用確保。
155	男性	70代	男女が共に希望の持てるような環境作りが必要です（雇用、保育、教育等の充実）。
156	男性	70代	子どもを産みやすい、育てやすい社会を構築することが大切だと思います。
157	女性	70代	元気にいきいきと暮らすための健康講座や身体を動かす体操の指導など開催して欲しい。
158	女性	70代	市内に自治会などの気軽に話し合いのできる場所が欲しい。近所の付き合いも少なくなったので、ひとり暮らしは淋しいと思う。
159	女性	70代	互いに助け合い協力して、好きなことを楽しむ。
160	男性	70代	①人の生き方の意識改革 ②八千代ふれあい大学の入学者数を増員させ、①に関するカリキュラムを増やす
161	男性	70代	男女が共に豊かにいきいきと暮らせる社会、まずは健康であること、病には心の病、身の病がある、もちろん本人の自覚と責任が基本にあるが大切なことは互いにどう理解しえあるか、長門・南田さんの介護の記録の放映で身に迫るものがありました。妻に、「もしあなたがそうなったら僕も同じことをする」と言ったら、妻は涙していました。市政でビジョンを示して希望を与えてください。
162	男性	70代	働く女性の受け皿となる保育施設の整備が税収にもつながるし一石二鳥と考えられる。高齢者の健康づくりの保健指導及び在宅介護の支援、サービス、たとえば高齢者が在宅で終末を迎えるための生活支援があれば安心して老後の設計が組める。
163	男性	70代	働きたい（男女ともに）仕事、場所などの市として真剣に考えるべき。市長が先頭に立って地域の住民と対話を深める場を持つべきである。
164	女性	70代	基本は男女平等ですが個々の性格・能力に適応した職業で、お互いを認め合い尊敬しあい助け合いの社会が希望です。
165	女性	70代	年老いると共に心も老いて心身共に閉鎖的になりがちですが、自分が何か役に立っている生きがいを持っていると思った時、前向きな意欲が持てると思います。個々人の生来培ってきた能力や特技などもっと生かせる場があったら受け身ではない生き方ができるのではないかと、そんな受け皿を考えてくれるとありがたいです。
166	女性	70代	老人になった男女のいつでも集まっておしゃべりできるお茶飲み場を各地域につくってほしい。コミュニケーションのささやかな場所が必要だと思います。
167	男性	70代	個人情報保護・重視のために地域・自治会の昔（戦前・中・後）からあった隣組、家族、子供会、町内、年寄の年代間の良い意味での交流がなくなってしまった。他の子供に簡単に声をかけることも禁止される閉鎖した社会が怖い。
168	男性	70代	高齢者が健康で暮らせるようにしてほしい。
169	女性	70代	未婚の男女、親同士に出会いの場の提供。

No.	性別	年代	自由意見
170	男性	70代	コンクリートより人、コンクリートより自然を重んじる心の教育を男女とも受けられる機会が必要と思う。
171	男性	70代	家庭を大事にして、家族仲良く信じ合うことが一番。
172	女性	70代	お互いにできることは自分から進んですること。
173	女性	70代	男女問わず高齢者、障害者になったとき現実には施設、介護サービス、病院（入院時転院を宣告される）等不安なことが多々あります。いきいきと暮らすためにはこの様な不安をなくし、日々を安心して過ごせる様な社会になるよう要望します。
174	男性	70代	市内の女性会に男性も参画して、活動できるようにしたらよいと思います。
175	女性	70代	お互いに趣味を持ち、またいろいろな話し合いの機会を持てば、家庭も円満であり楽しい生活も送れると思います。年齢を重ねるごとに健康が一番の宝物だと思います。
176	女性	70代	健康を考えて社会に出て、皆とともに歩んで行く意志を持ち、老人も若い人も同じくボランティアの意識をもち、歩んでいくことだと思います。孤立しないことだと思います。
177	女性	70代	個人の間人形成に力を入れることが大切。
178	女性	70代	家庭生活について、問2「夫は外…、妻は家庭…」でやってきて、今更反対といっても70代では今条件が違うのでどうしようもない。
179	女性	80代以上	健康第一。趣味など自分の好きなことをして、一日一日楽しく暮らすこと。
180	女性	80代以上	八千代市は素晴らしい地域だ。道路にしろ、スーパーにしろ東京とは比較にならない。85歳でこの広い道路があり、スーパーがあるので安心して老婆が車で買い物ができるています。ありがとう。そして、主人を食べさせています。

V 調查票

八千代市の男女共同参画に関する意識調査

あなた自身のことについて、うかがいます。

統計処理を行うために必要な情報ですので、全員がお答えください。(回答日現在・あてはまるものに○)

① 性別	1. 女性 2. 男性 無回答
② 年齢	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上
③ 世帯	同居している家族の人数 () 人 ・同居している家族の状況 (あてはまる続柄に○をつけ、年代を記入してください。同じ続柄や年代に複数人いる場合、○および記入は1つで結構です) 1. 配偶者 (歳代) 2. 父 (歳代) 3. 母 (歳代) 4. 姉妹, 兄弟 (歳代)・(歳代)・(歳代) 5. 子 () 人 (0~5歳・6~12歳・13~15歳・16~18歳・19歳以上) 6. 親族 () 人 7. その他 ()
④ 介護・育児の有無	1. 現在, 同居家族の中に介護を必要とする人がいる 2. 現在, 同居家族の中に育児を必要とする人がいる
⑤ ご職業	1. 自営業・自由業 2. 正社員 3. 派遣社員 4. 非常勤・パート・アルバイト 5. 農業 6. 専業主婦・専業主夫 7. 学生 8. その他 ()

男女の地位について、うかがいます。

問1 あなたは、次の(1)から(10)の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(○は1つ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(1)家庭生活	1	2	3	4	5	6
(2)職場	1	2	3	4	5	6
(3)学校教育の場	1	2	3	4	5	6
(4)政治の場	1	2	3	4	5	6
(5)法律や制度上	1	2	3	4	5	6
(6)社会通念・意識・慣習・しきたり等	1	2	3	4	5	6
(7)地域活動	1	2	3	4	5	6
(8)健康づくり・福祉において	1	2	3	4	5	6
(9)国際社会	1	2	3	4	5	6
(10)社会全体	1	2	3	4	5	6

家庭生活等について、うかがいます。

問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について、どう思いますか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 賛成 | 3. どちらかといえば反対 |
| 2. どちらかといえば賛成 | 4. 反対 |
| | 5. わからない |

問3 現在、結婚している方(結婚していないがパートナーと暮らしている方も含む)にうかがいます。

ご夫婦で、共働きをしていますか。(○は1つ)(ここで働いている人とは、週1時間以上働いている人のことです。出産休業・育児休業・介護休業中の人も含みます。)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 共働きをしている | 2. 共働きをしていない |
|-------------|--------------|

問4 あなたの家庭では、次の(1)から(4)のことを、主に誰が行っていますか。(〇は1つ)

一人暮らしの方は、問6へお進みください。

	家族の中の女性	家族の中の男性	家族の中の男女同程度	その他(家族以外の人)	該当しない・わからない
(1) 家事	1	2	3	4	5
(2) 育児	1	2	3	4	5
(3) 介護	1	2	3	4	5
(4) 地域活動	1	2	3	4	5

問5 あなたは理想として、次の(1)から(4)のことをどのように分担するのがよいと思いますか。(〇は1つ)

一人暮らしの方は、問6へお進みください。

	家族の中の女性	家族の中の男性	家族の中の男女同程度	その他(家族以外の人)	該当しない・わからない
(1) 家事	1	2	3	4	5
(2) 育児	1	2	3	4	5
(3) 介護	1	2	3	4	5
(4) 地域活動	1	2	3	4	5

職業について、うかがいます。

問6 現在、職業をお持ちの方にうかがいます。

あなたの職場では、仕事の内容や待遇の面で、性別による差別はあると思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 男性の方が優遇されている | 4. どちらかといえば女性の方が優遇されている |
| 2. どちらかといえば男性の方が優遇されている | 5. 女性の方が優遇されている |
| 3. 差別はない | 6. わからない |

問7 問6で「1」か「2」または「4」か「5」とお答えの方に、うかがいます。

それは、具体的にどのようなことですか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | | |
|----------------|---------------------------|-----------------|
| 1. 賃金 | 5. 仕事の内容 | 8. 結婚、出産退職などの慣行 |
| 2. 昇進・昇格 | 6. 教育・訓練の機会や内容 | 9. その他 |
| 3. 幹部社員・職員への登用 | 7. 有給休暇や育児休業、介護休業の取得のしやすさ | (具体的に:) |
| 4. 能力評価 | | 10. わからない |

問8 現在、職業をお持ちでない方(学生を除く)にうかがいます。

あなたが働いていないのはどうしてですか。(〇は1つ)

- | | |
|------------------------------|-------------------------|
| 1. 経済的に働く必要がないから | 8. 健康面の制限のため |
| 2. 家事との両立が困難だから | 9. 配偶者(パートナー)等家族が望まないから |
| 3. 子育てとの両立が困難だから | 10. 家事や子育て、介護に専念したいから |
| 4. 介護との両立が困難だから | 11. 定年退職したから |
| 5. 適当な勤務条件(時間、場所等)の仕事がなかったから | 12. その他 |
| 6. 希望する仕事なかったから | (具体的に:) |
| 7. 年齢面の制限のため | 13. 特に理由はない |

問9 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。

(〇は3つまで)

1. 代替要員の確保など、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること
2. 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること
3. 地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること
4. 職場内に保育施設の整備をすること
5. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
6. 残業を減らすなど、労働時間を短縮すること
7. 子育てや介護などを理由に退職した者をもとの職場で再雇用する制度を導入すること
8. 男性中心の職場運営を見直すこと
9. 賃金や昇進などの男女間格差をなくすこと
10. パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善すること
11. 職業上、必要な教育・訓練等の機会や内容を充実すること
12. 男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること
13. その他(具体的に:)
14. わからない

問 10 一般的に、女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|--------------------------------------|
| 1. 女性は職業をもたない方がよい | 5. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい |
| 2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい | 6. その他(具体的に:) |
| 3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい | 7. わからない |
| 4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい | |

問 11 あなたは、今後、さまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増える方がよいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. よいと思う | 4. よいとは思わない |
| 2. どちらかといえばよいと思う | 5. どちらともいえない |
| 3. どちらかといえばよいと思わない | 6. わからない |

教育について、うかがいます。

問 12 あなたは、教育における男女平等の意識についてどう思いますか。(それぞれに○を1つ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	どちらとも いえない
(1) 性別にとらわれず、勇気や決断力、思いやりを身につけさせる方がよい	1	2	3	4	5
(2) 同じことをしても、女子だけまたは男子だけが注意されることも必要である	1	2	3	4	5
(3) 性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である	1	2	3	4	5
(4) 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5

社会活動について、うかがいます。

問 13 現在、あなたが参加している社会活動、または今後参加したいと思う活動は、次のどれですか。(それぞれに○を1つ)

	現在、参加している	今後、参加したい	参加したくない
(1) 子どもや青少年に関わる活動	1	2	3
(2) 自治会、女性団体など地域活動	1	2	3
(3) 趣味のサークル活動	1	2	3
(4) 市民講座、教養講座など講座受講	1	2	3
(5) ボランティア活動	1	2	3

少子・高齢化について、うかがいます。

問 14 あなたは、出生率が低下している原因は何だと思えますか。(○は3つまで)

1. 子育てに経費がかかりすぎる
2. 子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み(雇用条件・保育等)が整っていない
3. 女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した
4. 子どもは少なく産んで、十分手をかけて育てたいという人が増えた
5. 子どもより仕事や余暇等を充実したいと考える人が増えた
6. 結婚しない人が増えた
7. 出産・子育てに対する男性(夫)の理解・協力が足りず、女性(妻)の精神的・肉体的負担が大きい
8. 住宅事情が悪い
9. 楽をしたい、子育てが面倒という人が増えた
10. その他(具体的に:)

問 15 高齢社会の中で豊かに暮らすには、何が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 体力づくりをする機会があること
2. 趣味などを楽しむ機会があること
3. 知識や経験を生かせる機会があること
4. 高齢者の働く機会があること
5. 老人クラブなど地域活動が充実していること
6. 医療制度やサービスが充実していること
7. ヘルパー制度や老人給食などの在宅で過ごすためのサービスが充実していること
8. 労働時間を短縮すること
9. その他(具体的に: _____)
10. 特にない

国際化について、うかがいます。

問16 国際化の進展にともない、国際的な視野での国際交流・協力が求められていますが、男女平等の推進・施策の視点から必要とされることはどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 外国人に対する情報提供と学習機会の充実
2. 男女平等を推進するための国際協力・交流を担う人材の育成
3. 平和に向けた国際社会理解への意識づくり
4. 外国人の子ども達への教育推進事業により支援
5. 学校教育における国際理解・交流機会の充実
6. 民間の国際協力活動の促進
7. その他(具体的に: _____)
8. 特にない

男女共同参画社会の形成に関する意識について、うかがいます。

問17 男女がともに豊かにいきいきと暮らすために、八千代市に力を入れてほしいと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

1. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
2. 人権や生き方などの悩みに関する相談の場を充実する
3. 学校教育での男女平等教育を推進する
4. 審議会や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
5. 家庭での男女平等を推進する
6. 地域での男女平等を推進する
7. 働く場での男女平等を推進する
8. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
9. 生涯にわたる学習機会や生きがい対策を推進する
10. 保育の施設やサービス・支援を充実する
11. 高齢者・障害者の施設や介護サービス・支援を充実する
12. 生涯にわたる心と体の健康づくりを推進する
13. 平和に向けた国際理解を深めるための情報提供や機会を充実する
14. その他(具体的に: _____)
15. わからない

最後に、男女がともにいきいきと暮らすために必要なことなど、ご意見・ご要望がありましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。同封の返信用封筒に入れて、平成21年12月1日までにポストに投函してください。

平成21年度 八千代市の男女共同参画に関する意識調査
調査結果報告書

発行：平成22年3月
八千代市生涯学習部男女共同参画課
八千代市八千代台南 1-11-6 047(485)7088